

2024(令和6)年度
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
シラバス

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 目次

教育課程 (カリキュラムマップ)	3
カリキュラムツリー	4

2年生	5
2年生 年間予定表	6
2年生 シラバス	9

開講科目	頁
歴史と文化	9
暮らしの中の法律	10
運動学演習	11
内科学	12
神経学	13
臨床医学特論	15
小児科学	16
整形外科学総論	17
精神医学総論	18
精神医学各論	19
老年学	20
臨床心理学	21
リハビリテーション栄養学	22
救急救命医学	23
公衆衛生学	24
医療関連法規	25
作業療法理論	26

開講科目	頁
作業療法研究法	27
作業療法管理学	28
疾患別作業療法評価学実習 I	29
疾患別作業療法評価学実習 II	31
身体機能作業療法学実習	33
精神機能作業療法学実習	35
病期別作業療法学実習 I	37
病期別作業療法学実習 II	39
病期別作業療法学実習 III	41
作業療法応用演習	43
高次神経障害作業療法学	44
社会生活行為学演習	45
義肢装具学	46
臨床作業療法演習 II	47
臨床実習 II (評価実習)	49
職業リハビリテーション論	50

3年生	51
3年生 年間予定表	52
3年生 シラバス	55

開講科目	頁
作業療法管理学演習	55
作業療法総合演習	56
臨床作業療法演習 III	57
臨床実習 III (総合実習)	57
臨床実習 IV (総合実習)	59

開講科目	頁
地域作業療法実習	60
保健医療福祉連携論	61
専門支持科目特別演習	62
専門展開科目特別演習	64

ナンバリング	68
教員一覧	71
実務を有する教員一覧	72
オフィスアワー	73

リハビリテーション学科
作業療法学専攻
2年生

【2023(令和5)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土							
4月	31	1	オリテ①	2	①	3	入学式	4	①	5	①	6		
	7	8	健康診断②	9	②	10	①	11	②	12	②	13		
	14	15	③	16	③	17	②	18	③	19	③	20		
	21	22	④	23	④	24	③	25	④	26	④	27		
	28	29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7	⑤	8	④	9	⑤	10	⑤	11	
	12		13	⑤	14	⑥	15	⑤	16	⑥	17	⑥	18	
	19		20	⑥	21	⑦	22	⑥	23	⑦	24	⑦	25	
	26		27	⑦	28	⑧	29	⑦	30	⑧	31	⑧	1	
6月	2		3	⑧	4	⑨	5	⑧	6	⑨	7	⑨	8	
	9		10	⑨	11	⑩	12	⑨	13	⑩	14	⑩	15	
	16		17	⑩	18	⑪	19	⑩	20	⑪	21	⑪	22	
	23		24	⑪	25	⑫	26	⑪	27	⑫	28	⑫	29	
7月	30		1	⑫	2	⑬	3	⑫	4	⑬	5	⑬	6	
	7		8	⑬	9	⑭	10	⑬	11	⑭	12	⑭	13	
	14		15	海の日	16	⑮	17	⑭⑮	18	⑮	19	⑮	20	
	21		22	⑭⑮	23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1	定期試験	2	定期試験	3	
8月	4		5	定期試験	6	定期試験	7	定期試験	8	定期試験	9	定期試験予備日	10	
	11	山の日	12	振替休日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26	再試験	27	再試験	28	再試験	29	再試験	30	再試験	31	
9月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9	臨床実習Ⅱ	10	臨床実習Ⅱ	11	臨床実習Ⅱ	12	臨床実習Ⅱ	13	臨床実習Ⅱ	14	
	15		16	敬老の日	17	臨床実習Ⅱ	18	臨床実習Ⅱ	19	臨床実習Ⅱ	20	臨床実習Ⅱ	21	
	22	秋分の日	23	振替休日	24	①	25	①	26	①	27	①	28	
	29		30	①	1	②	2	②	3	②	4	②	5	

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 作業療法学専攻2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土							
10月	29	30	①	1	②	2	②	3	②	4	②	5		
	6	7	②	8	③	9	③	10	③	11	③	12		
	13	14	スポーツの日	15	④	16	④	17	④	18	④	19		
	20	21	③	22	⑤	23	⑤	24	⑤	25	⑤	26		
	27	28	④	29	⑥	30	⑥	31	⑥	1	⑥	2		
11月	3	文化の日	4	振替休日	5	⑦	6	⑦	7	⑦	8	⑦	9	
	10		11	⑤	12	⑧	13	⑧	14	⑧	15	⑧	16	
	17		18	⑥	19	⑨	20	⑨	21	⑨	22	⑨	23	勤労感謝の日
	24		25	⑦	26	⑩	27	⑩	28	⑩	29	⑩	30	
12月	1		2	⑧	3	⑪	4	⑪	5	⑪	6	⑪	7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験	21	
	22		23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験予備日	26		27		28	
	29		30		31		1	元旦	2		3		4	
1月	5		6		7	再試験	8	再試験	9	再試験	10	再試験	11	
	12		13	成人の日	14		15		16		17		18	
	19		20	臨床実習Ⅱ	21	臨床実習Ⅱ	22	臨床実習Ⅱ	23	臨床実習Ⅱ	24	臨床実習Ⅱ	25	
	26		27	臨床実習Ⅱ	28	臨床実習Ⅱ	29	臨床実習Ⅱ	30	臨床実習Ⅱ	31	臨床実習Ⅱ	1	
2月	2		3	臨床実習Ⅱ	4	臨床実習Ⅱ	5	臨床実習Ⅱ	6	臨床実習Ⅱ	7	臨床実習Ⅱ	8	
	9		10	臨床実習Ⅱ	11	建国記念の日	12	臨床実習Ⅱ	13	臨床実習Ⅱ	14	臨床実習Ⅱ	15	
	16		17	臨床実習Ⅱ	18	臨床実習Ⅱ	19	臨床実習Ⅱ	20	臨床実習Ⅱ	21	臨床実習Ⅱ	22	
	23	天皇誕生日	24	振替休日	25		26		27		28		1	
3月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18	卒業式	19		20	春分の日	21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	30		31		1		2		3		4		5	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	
							授業回数	10 回
授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。							
到達目標	(丸藤) 近現代世界を形成する上で重要な歴史事象について、様々な観点から各回主題を設ける。主題に関する諸問題を学び、近現代の世界に対する知識・理解を深め、歴史に対する関心を育むことを目標とする。 (徳田) 世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。							
学修者への期待等	授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	グローバルエコノミーのはじまり —西欧の拡大により一体化する世界—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
2	科学革命と啓蒙 —近代科学の成立と「知」の大転換—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
3	産業革命 —工業化による経済・社会の変革—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
4	医療の歴史 —医療・医学の発展と近代社会—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
5	現代世界とグローバルヒストリー —現代世界の成立と新しい歴史観—				今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)		丸藤 准二	
6	ユダヤ教について —律法の遵守—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
7	キリスト教について —罪からの救い—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
8	イスラームについて —神への服従—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
9	インドの宗教について —業と輪廻—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
10	仏教について —苦からの解脱—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配付します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	PT・OT合同授業 (評価方法) (丸藤) 試験(筆記)70% 授業態度30% 課題は授業内に解答してフィードバックします。 (徳田) 授業内課題(全5回)100% 授業終了時に実施するチェックテストで評価します。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-02				
	●			●						
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	鈴木 一樹		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	<p>法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。</p> <p>さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。</p>									
到達目標	法律とは何か、何のために存在するか、そして日常生活でどう生かされているかを理解する。									
学修者への期待等	法律の考え方は非常に論理的で社会生活においても有用なので、法律的な思考方法を修得できるよう一つひとつ確実に理解するよう努めること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス 法律入門									
2	憲法(1)	人権			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
3	憲法(2)	統治			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
4	憲法(3)	憲法総合			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
5	民法(1)	総則			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
6	民法(2)	物権			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
7	民法(3)	債権(債権総論)			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
8	民法(4)	債権(債権各論)			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
9	民法(5)	親族相続			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
10	まとめ(重要ポイントの振り返り)				前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-BSF-10			
		●		●					
科目名	運動学演習				単位認定者	高橋 慧		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。								
到達目標	1. 作業・活動・動作・運動分析とは何か説明できるようになる。 2. 動作、運動の観察の視点が説明できるようになる。 3. 動作、運動の記載がそれぞれできるようになる。								
学修者への期待等	提出物の期限が守れるよう計画的に行動してほしい。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	授業ガイダンスと運動学演習への導入、学修の進め方 作業・動作分析の種類			基礎作業学を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
2	観察と分析、記録の方法			前回の授業内容の復習と客観・主観の説明ができるよう学修しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
3	姿勢観察【演習】			前回の授業内容と姿勢に関する解剖学、運動学を復習しておくこと（予習、復習各30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
4	姿勢分析【演習】			前回までの内容を終わらせておくこと（30分～1時間程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
5	姿勢確認、修正【演習】			前回までの内容を確認しておくこと（30分～1時間程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
6	立ち上がり動作観察【演習】			立ち上がりに関する解剖学、運動学を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
7	立ち上がり動作分析【演習】			前回までの内容を終わらせておくこと（30分～1時間程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
8	立ち上がり動作確認、修正【演習】			前回までの内容を確認しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
9	歩行観察【演習】			歩行に関する解剖学、運動学を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
10	歩行分析【演習】			前回までの内容を終わらせておくこと（30分～1時間程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
11	歩行動作確認、修正【演習】			前回までの内容を確認しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
12	ADL観察の基礎			ADL・IADLの概要を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
13	ADL観察【演習】			ADLの工程を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
14	運動学のための人体解剖学実習① 【一部の反転学習を含む、フィールドワーク】			LMSに掲載された資料を確認すること（60分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
15	運動学のための人体解剖学実習② 【フィールドワーク】			LMSに掲載された資料を確認すること（60分程度）			高橋 慧 齋藤 佑樹		
教科書	『基礎運動学 第6版補訂』中村隆一他著、医歯薬出版株式会社* 『動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践』石井 慎一郎著、メジカルビュー社* *1年次購入済み								
参考文献	『筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』Donald A. Neumann原著、医歯薬出版株式会社 『PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床』小柳磨毅他編、金原出版								
備考	授業内課題の提出期限は厳守してください。期限を過ぎた場合は受け取りませんので気をつけてください。 授業内課題のフィードバックは授業時間中に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤佑樹：総合病院に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、運動学の基礎的知識や動作分析についての講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-03			
		●		●					
科目名	内科学				単位認定者	宮城 重人		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本講義では、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候学、治療等について学ぶとともに、腹部内臓器の諸疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、その他さまざまな疾患についての理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。								
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために1) 医学用語を間違いなく読みかつ書き、意味を理解し正しく表出できること。2) 各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する(疾患の全身に及ぼす機序を理解する)。3) 国家試験に備え知識を整理する。								
学修者への期待等	医療従事者になるために勉強するのだという責務と緊張感を持って授業に臨んでほしい。授業内容が広範であり、修得すべき知識も膨大であるから、授業中に要点を理解しておき細部については自己学修する姿勢が大切である。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	「医をまなぶ」医学への関心度(一般的な医学情報に対する質問)				医学一般に関する学修			田林 暁一	
2	循環器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二郎	
3	循環器疾患2(動脈硬化性疾患)				教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二郎	
4	循環器疾患3(不整脈)				教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度) 特に心電図診断について			赤松 大二郎	
5	消化器疾患1 肝胆膵腹膜疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に食道癌 胃癌 大腸癌について			宮城 重人	
6	消化器疾患2 臓器移植				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人	
7	消化器疾患3 消化器疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に肝硬変、肝癌について			宮城 重人	
8	腎泌尿器疾患 総論・各論				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人	
9	呼吸器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について(概ね30分程度)			渡辺 卓	
10	呼吸器疾患2 各論				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に閉塞性肺疾患 肺炎 肺癌 呼吸リハについて			渡辺 卓	
11	内分泌疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓	
12	代謝性疾患(肥満、メタボリック症候群)				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓	
13	代謝性疾患(糖尿病、脂質代謝異常)				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓	
14	血液疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に貧血の分類について			渡辺 卓	
15	免疫疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓	
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』奈良 勲 著、医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-05			
		●		●					
科目名	神経学				単位 認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	60 時間	
							授業回数	30 回	
授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士作業療法士に必要な神経学的診療ができるように、授業では動画供覧、実演する。 ・神経症候の基礎と神経・筋疾患の臨床を理解でき、臨床実習では実際の症例で確認できるようになる。 ・疾患の理解に必要な画像診断や検査について説明できるようになる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・神経・筋疾患は理学療法・作業療法の対象となる疾患も多い。しっかり予習・復習をして授業に臨むこと。 ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後はノートやLMS資料への書き込み等を整理し復習に重点を置くこと。 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	神経系の構造と機能(1) 神経系総論、神経組織				教科書p14~31『中枢神経系の解剖と機能』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
2	神経系の構造と機能(2) 中枢神経系				教科書p25-26、56-57『末梢神経の構造』と関連する分野を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
3	神経学的診断：神経学的診察の実際				教科書p35-50『神経学的診断と評価』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
4	神経学的検査法(1) 画像診断				教科書p51-56『神経学的検査法：画像診断』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
5	神経学的検査法(2) 神経生理学的検査				教科書p56-67『神経学的検査法：神経生理学的検査他』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
6	神経症候学(1) 運動麻痺				教科書p79-88『運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
7	神経症候学(2) 錐体路徴候：痙縮(痙性麻痺)				教科書p79-88『運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
8	神経症候学(3) 錐体外路徴候：固縮、不随意運動				教科書p89-93『錐体外路徴候、不随意運動』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
9	神経症候学(4) 運動失調				教科書p94-98『運動失調』、p99-106『感覚障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
10	神経症候学(5) 高次脳機能障害① 総論、失語(症)				教科書p107-119『高次脳機能障害：総論/失語症』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
11	高次脳機能障害② 失認(症)、失行(症)				教科書p120-136『高次脳機能障害：失認/失行』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
12	高次脳機能障害③ 記憶、知能				教科書p137-142『高次脳機能障害：記憶障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
13	神経症候学(6) 嚥下障害				教科書p152-156、157-163『嚥下障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
14	神経症候学(7) 排尿障害				教科書p351-355『排尿障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
15	総括 神経学的診察のデモンストレーションとDVD『神経診察法』供覧				1-14回の授業資料の整理(概ね1時間程度)			佐直 信彦	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳血管疾患(1) 定義、分類・診断、症候学、治療、予後	教科書p173-182『IV神経疾患各論 脳血管障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
17	脳血管疾患(2) リハビリテーション、在宅支援	教科書p173-182『IV神経疾患各論 脳血管障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
18	脳損傷 外傷性脳損傷の受傷機転、分類、症候学的特異性、治療・リハビリテーション	教科書p231-237『外傷性脳損傷(軸索障害を含む)』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
19	認知症 定義、病型と診断、薬物療法とリハビリテーション	教科書p204-223『認知症』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
20	脊髄損傷(1) 発症機序と神経症候、ASIA高位診断	教科書p238-239『脊髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
21	脊髄損傷(2) 機能予後、合併症、リハビリテーション	教科書p238-239『脊髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
22	末梢神経障害(1) 末梢神経損傷	教科書p275-283『末梢神経障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
23	末梢神経障害(2) 末梢性ニューロパチー	教科書p275-283『末梢神経障害』後半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
24	変性疾患・脱髄疾患 脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症	教科書p253-261『変性疾患・(錐体外路系除く)・脱髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
25	錐体外路の変性疾患 Parkinson病の病態、治療	教科書p262-274『錐体外路の変性疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
26	筋疾患 筋ジストロフィー、多発性筋炎・皮膚筋炎、筋無力症	教科書p288-301『筋疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
27	脳腫瘍 分類と好発部位、症状の特殊性、診断・治療	教科書p224-230『脳腫瘍』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
28	感染性疾患、内科疾患に伴う神経・筋疾患、栄養欠乏による神経疾患、中毒性神経疾患 病因、症状、検査、診断・治療法、予後	教科書p302-310『感染性疾患』、p311-315『中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
29	小児神経疾患：脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群	教科書p316-336『小児神経疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
30	神経学 後期 総括	16-29回の授業資料の整理・復習(概ね1時間程度)	平山 和美
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』川平和美編、医学書院		
参考文献	『ベッドサイドの神経の診かた』田崎義昭・斎藤佳雄著、坂井文彦改訂 南山堂、図書館蔵 その他、授業中に紹介		
備考	PT・OT合同授業 授業資料等はLMSに掲載する。 授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直：医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-12				
		●		●						
科目名	臨床医学特論				単位認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	本講義は、「疼痛」、「がん」、「皮膚障害」に関する3分野のオムニバスで構成される。「疼痛分野」では、痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「がん」分野では、がん関連障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「皮膚障害分野」では、熱傷、褥瘡、創傷を中心とした病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。									
到達目標	①痛みの定義、病態と分類、痛みの評価、マネジメントを説明できる。 ②原発臓器別にがんの特徴と原因、分類、主な診断・治療について説明できる。 ③代表的な皮膚障害の病態や診断・治療を説明でき、理学療法・作業療法のなかに展開できる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。 授業後は復習を必ず行い、わからないことがあれば積極的に質問を行うこと。 常に疑問をもち課題等に取り組む。 									
回	授業計画			準備学修			担当			
1	痛みとは(定義・分類)			『痛みとは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤			
2	急性痛(病態・評価・マネジメント)			『急性痛とは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤			
3	慢性疼痛(分類・病態)			『慢性疼痛とは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね45分程度)			大友 篤			
4	慢性疼痛(評価)			『慢性疼痛の評価』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤			
5	慢性疼痛(マネジメント)			『慢性疼痛のマネジメント』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤			
6	がんの発生機序や病態について			がん発生の機序について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩			
7	各がん疾患の特徴について			胸部、消化器、泌尿器、女性生殖器等のがん疾患について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩			
8	皮膚障害(熱傷・褥瘡・創傷)			熱傷・褥瘡・創傷について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩			
教科書	特に指定しない。講義資料を配付又はLMS上に投稿する。									
参考文献	『ペインリハビリテーション 第1版』松原貴子・沖田実・森岡周編、三輪書店 『慢性疼痛診療ハンドブック 第1版』池本竜則・愛知医科大学運動療育センター講師編、中外医学社 『痛みの集学的診療 第1版』日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会編、真興交易 『内部障害理学療法学テキスト 改定第3版』細田多穂 編、南江堂 『がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版』日本がんリハビリテーション研究会、金原出版									
備考	P T・O T合同授業 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は第1回～5回講義担当教員から出題され、講義終了後1週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点后希望者にはフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

荒牧隼浩：当該教科担当者は急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-06				
		●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学習する。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現（他人に知らせる）することが出来るように努力すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。（概ね1時間程度）					
2	免疫・アレルギー疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
3	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）					
4	呼吸器・循環器疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（概ね1時間程度）					
5	新生児疾患・消化器・内分泌疾患				【事前】新生児特有の生態を理解しておく。消化器の構造、機能および内分泌の仕組み（特にフィードバック）について理解しておく。（概ね1時間程度）					
6	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）					
7	腎・泌尿器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）					
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』前垣 義弘、小倉 加恵子 編、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-07			
		●		●					
科目名	整形外科学総論				単位認定者	入江 紀一		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	整形外科学は運動器の疾患を取り扱う。運動器には脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、腱、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態は、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害など他の診療科と共通の病態と、先天性障害や変形、外傷など運動器に特徴的な病態がある。本講義では、これらの運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。								
到達目標	1. 整形外科で扱う運動器の疾病や外傷並びに先天性障害の病態、治療が理解できるようになる。 2. 運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法・作業療法を展開できるようになる。								
学修者への期待等	2年次は、実際の臨床症例を呈示しながら、疾患や外傷について学び、整形外科に関心を持ってもらう。教科書通りの講義ではないが、国家試験に出題されている項目は他科(解剖学、生理学等)の領域も含めて一応網羅しているので、総合的に学ぶように努めること。								
回	授業計画				準備学修				
1	歴史 整形外科の歴史				教科書の序章(整形外科とは)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
2	整形外科の基本 ①骨の構造 成長と維持 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第1~4章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
3	整形外科の基本 ②関節の構造 骨・軟骨の再生 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第5~7章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
4	整形外科の基本 ③筋・神経の構造と機能				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第8~9章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
5	診断 診察と検査				教科書の第II編(整形外科診断総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
6	治療 保存療法と手術療法				教科書の第III編(整形外科治療総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
7	疾患総論 ①感染症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第16章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
8	疾患総論 ②関節リウマチ				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第17章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
9	疾患総論 ③変形性関節症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第18章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
10	疾患総論 ④先天性骨系統疾患 先天異常症候群 ⑤骨腫瘍				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第20~21、23章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
11	疾患総論 ⑥循環障害 代謝障害による骨疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第19章、第22章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
12	疾患総論 ⑦神経・筋疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第25章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
13	外傷総論 ①骨折、捻挫、脱臼				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
14	②骨折の治療と合併症				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
15	③神経損傷(脊髄・末梢神経)				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第39・40章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
教科書	『標準整形外科学』田中栄、高木理彰、松田秀一編 井樋栄二、津村弘監修、医学書院								
参考文献	特に指定しない								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-08			
		●		●					
科目名	精神医学総論				単位認定者	三輪 真也		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について広く学び、その障害を持つ患者の理解に必要な基本的事項や臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。								
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できる。								
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。								
回	授業計画				準備学修				
1	こころ(精神)とは何かを学修する(心の構造について理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
2	こころ(精神)とは何かを学修する(心と環境のかかわりについて理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
5	神経症性障害について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
6	心身症について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
9	統合失調症の病態について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
10	統合失調症の経過と治療について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
11	気分障害について学修する				教科書10章(気分(感情)障害)を読む(概ね1時間程度)				
12	発達障害、自閉スペクトラム症について学修する				教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む(概ね1時間程度)				
13	器質性精神障害全般について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
14	認知症を呈する脳疾患について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
15	補足、まとめ				第14回に指定のあった教科書範囲を読む(概ね1時間程度)				
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』奈良 勲 著、医学書院								
参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-09			
		●		●					
科目名	精神医学各論				単位 認定者	須藤 あゆみ		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数			15 回
授業の概要	本講義では「精神医学総論」で学修した内容をもとに、作業療法士の対象疾患について疾患別の病因、病態、診断、治療について系統的に学修する。精神障害は行為を制限し、生活の質(QOL)の低下をもたらすことから、疾病の診断・治療のみならず、生活支援をも含む内容を学修する。								
到達目標	1. 主な精神疾患の症状、経過、治療について説明できるようになる。 2. 精神医学に対する関心を深めると同時に、精神医療における人権擁護の重要性を理解する。								
学修者への 期待等	1. シラバスに基づき、事前に教科書の授業範囲を一読しておくこと。 2. 各回で学んだ内容を整理し理解すること。疑問点などは自ら調べたり、質問すること。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	精神機能の障害と精神症状について学ぶ				教科書 p 16～44を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
2	統合失調症について学ぶ				教科書 p 127～148を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
3	気分障害について学ぶ				教科書 p 149～163を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
4	神経症性障害について学ぶ				教科書 p 164～175を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
5	摂食障害・睡眠障害について学ぶ				教科書 p 176～180を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
6	パーソナリティ障害について学ぶ				教科書 p 181～187を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
7	てんかん・精神遅滞について学ぶ				教科書 p 115～125、 p 188～196を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
8	精神作用物質による精神および行動の障害について学ぶ (アルコール・乱用薬物)				教科書 p 100～112を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
9	発達の障害について学ぶ				教科書 p 215～229を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
10	治療について学ぶ				教科書 p 235～249を読んで授業に臨むこと (30分程度)			須藤 あゆみ	
11	Alzheimer病、Alzheimer型認知症について学ぶ				教科書 p 68該当する箇所を読んで授業に臨むこと (30分程度) 授業終了後、各認知症症状と基礎疾患について整理しまとめること (30分程度)			戸田 祐子	
12	Lewy小体型認知症について学ぶ							戸田 祐子	
13	前頭側頭型認知症 (Pick病) について学ぶ							戸田 祐子	
14	脳血管性認知症について学ぶ							戸田 祐子	
15	認知症症状を呈する疾患について学ぶ。正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、Creutzfeldt-Jakob病など							戸田 祐子	
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』上野武治編、医学書院*1 『標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版』松房利憲編、医学書院*2 *1 精神医学総論と同じ教科書を使用します *2 1年次購入済み								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かし講義を行う

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-13			
		●		●					
科目名	老年学				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
	O T	必修	2年			授業形態	講義	授業時間数	16 時間
				授業回数	8 回				
授業の概要	高齢化の加速に伴って、リハビリテーションの対象としての高齢者が増えると考えられる。老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学ぶとともに、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。								
到達目標	1. 老化の生物学的意義と老化理論を理解し、説明できるようになる。 2. 加齢に伴う人体並びに諸機関の構造・機能の変化を理解し、説明できるようになる。 3. 老化現象と疾病並びに生活機能の関係を理解し、理学療法、作業療法に展開できるようになる。 4. 高齢者をめぐる現状と課題について理解し、将来の変遷に対処できるようになる。								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間中に授業内容を理解する。解らないことは積極的に質問する。 ・ 授業の資料やノートを整理し、復習する。 								
回	授業計画				準備学修				担当
1	老年学と老化学 I 老化とは II 老化の測定				LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)				佐直 信彦
2	III 老化の理解：細胞老化、 老化の機序と制御								佐直 信彦
3	加齢による変化 総論 ①全般的身体的・機能的変化 ②組織レベルの変化 加齢による変化 各論 A神経・筋系、B感覚系								佐直 信彦
4	C骨・運動器、D循環器系、E呼吸器系、F消化器系、G排尿機能、 H体温調節、I免疫機能、J内分泌機能、K生体リズム、 L高次脳機能、M心理社会面								佐直 信彦
5	老年症候群：概念、分類、虚弱・衰弱・老衰、フレイル、 低栄養、サルコペニア、不眠、転倒・骨折								戸田 祐子
6	ロコモティブシンドローム：定義、症候・徴候、 判定・診断								金谷 さとみ
7	高齢者とリハビリテーション： 高齢者の特徴、機能障害に影響する要因、高齢者のリハビリテーションと特異性								戸田 祐子
8	高齢者をめぐる現状と課題： 2025年問題、地域包括ケアシステム、地域連携の重要性								戸田 祐子
教科書	教科書指定せず。								
参考文献	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学』大内尉義編、医学書院(図書館蔵) 『新老年学』大内尉義・他編、東京大学出版会(図書館蔵)								
備考	P T・O T合同授業 当該授業資料・狙いと課題をLMS上に掲載します。それに従って予習復習をしてください。授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。個別には教員研究室にて対応する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直は、医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-10				
		●		●						
科目名	臨床心理学				単位認定者	村椿 智彦		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	15 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	5 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。									
到達目標	臨床心理学の知識を習得して支援を必要とする対象の心理行動的側面を理解できるようになること、そしてそれに基づいて適切な支援をできるようになること。									
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 毎回、小テストを実施するため予習を行うとともに、真摯な態度で受講すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	リハビリテーションと臨床心理学				【予習】教科書p.8～15を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
2	臨床心理学とは				【予習】教科書p.64～71を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
3	治療者-患者関係(共感・傾聴・ラポール・カタルシス、転移と逆転移)				【予習】教科書p.74～77を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
4	障がい受容の過程				【予習】教科書p.78～79を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
5	心理アセスメント				【予習】教科書p.80～87を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
6	心理検査(1) 人格検査、知能検査				【予習】教科書p.88～91を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
7	心理検査(2) 発達検査、認知機能検査				【予習】教科書p.92～95を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
8	支持的精神療法と集団精神療法				【予習】教科書p.114～117を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
9	心理療法の理論と技法(1) 精神分析、防衛機制				【予習】教科書p.72～73、p.104～105を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
10	心理療法の理論と技法(2) 行動療法、学習(レスポナント条件付け、オペラント条件付け)				【予習】教科書p.44～47、p.96～99を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
11	心理療法の理論と技法(3) 認知行動療法、情動理論				【予習】教科書p.32～33、p.100～101を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
12	心理療法の理論と技法(4) 自律訓練法、バイオフィードバック、社会生活技能訓練				【予習】教科書p.102～103を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
13	心理療法の理論と技法(5) 来談者中心療法、交流分析				【予習】教科書p.110～113を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
14	心理療法の理論と技法(6) 芸術療法(絵画療法、箱庭療法)				【予習】教科書p.108～109を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
15	心理療法の理論と技法(7) 内観療法、森田療法				【予習】教科書p.106～107、p.118～119を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
教科書	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』内山靖 他 編 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業時に随時紹介する。									
備考	P T・O T合同授業。小テストは答え合わせ、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-04				
		●		●						
科目名	リハビリテーション栄養学				単位 認定者	岩間 高泉	正典 佳苗	試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。本講義では、栄養に関する基礎事項について学修し、理学療法・作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学ぶ。									
到達目標	1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。									
学修者への期待等	リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について				教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
2	栄養素の消化と吸収				教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
3	エネルギー代謝、食事摂取基準				授業で学んだ「日本人の食事摂取基準」について復習すること。（概ね30分）		岩間 正典			
4	運動時の栄養管理				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
5	栄養補給法、栄養ケアプロセス				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
6	病態別の栄養管理（1）：低栄養、過栄養				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
7	病態別の栄養管理（2）：摂食嚥下障害、フレイル、サルコペニア				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
8	疾患別の栄養管理：術前・術後、脳卒中、がん、大腿骨近位部骨折				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』 栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』 若林秀隆著、医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高泉：管理栄養士として病院における栄養管理の実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-11				
		●		●						
科目名	救急救命医学				単位認定者	伊藤 大亮		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本講義では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 災害医療について理解できるようになる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	応急手当の基礎知識 I 応急手当と救命処置・II 救命の連鎖と住民の役割・III 突然の心停止を防ぐために				テキスト §1 応急手当の基礎知識にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
2	救命処置① I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの手順)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
3	救命処置② I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
4	救命処置③ I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
5	救命処置④ II 救命処置の手順(気道異物の除去) III 乳児の救命処置				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
6	その他の応急手当① I 傷病者の管理法(安全・保温・体位) II 止血法(直接圧迫止血法)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
7	その他の応急手当② I 傷病者の管理法(安全・保温・体位) II 止血法(直接圧迫止血法) III 病気やけがに対する応急手当				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
8	その他の応急手当③ III 病気やけがに対する応急手当 (三角巾の使用・搬送法など) その他(119番通報と救急車の呼び方)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド) §4 その他にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
9	災害医療の基礎知識				災害医療に関する知識について調べておくこと。		江川 新一 伊藤 大亮			
10	わが国の災害医療体制とリハビリ				災害医療に関する知識について調べておくこと。		江川 新一 伊藤 大亮			
11	避難所運営ゲーム(HUG)①グループワーク				避難所運営ゲーム(HUG)について調べておくこと。		江川 新一 坂上 尚徳 佐々木 広人			
12	避難所運営ゲーム(HUG)②グループワーク				グループワークの課題作成をしておくこと。		伊藤 大亮 荒牧 隼浩 熊谷 竜太 高橋 慧			
13	手当・一次救命処置(BLS)の実際(1)グループワーク				BLSについて、予習しておくこと。		坂上 尚徳 佐々木 広人			
14	手当・一次救命処置(BLS)の実際(2)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。		伊藤 大亮 荒牧 隼浩			
15	手当・一次救命処置(BLS)の実際(3)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。		須藤 あゆみ 戸田 祐子			
教科書	『改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	『災害リハビリテーション標準テキスト』『リハベーシック 安全管理学・救急医療学』 医歯薬出版株式会社									
備考	クラス編成 1回目～12回目：P T・O T合同、13回目～15回目 P TはA Bクラスに分かれて実施、O Tは単独実施									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

伊藤大亮：大学病院にて長年理学療法業務に従事し、十分な臨床実務経験を有する。内部障害チーム所属時はリハ部門内救急救命教育に従事した経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-H&R-03				
		●		●	●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	理学療法士は、対象者の健康に関連した諸問題に向き合うことが求められる。本科目では、その基本をなす「健康」とは何かについて学び、健康を維持するための基本的な知識を学ぶとともに、社会生活を送る対象者のライフスタイルが健康にどのような影響を及ぼすか、効果的な方法論は何かなどについて幅広く学習する。									
到達目標	1. 健康とは何かを知り、健康を守るための公衆衛生学について系統的に学修する。 2. 理学療法士および作業療法士に関係する保健活動について説明できる。									
学修者への期待等	教科書を中心に進めるので、各自記録しながら受講すること。講義の予習としては、難しい内容なので教科書を一読してくる。復習については、学んだ内容をノートに整理する。日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けるよう心掛ける。									
回	授業計画				準備学修					
1	衛生学、公衆衛生学の概要と保健統計について				教科書第1～2章（衛生学・公衆衛生学序論、保健統計）					
2	疫学の概要と疫学研究について				教科書第3章（疫学の基本、疫学研究の方法など）					
3	疾病予防と健康管理の方法論				教科書第4章（疾病リスクと予防医学、疾病予防の段階、健康増進、健康政策などについて）					
4	主な疾病の予防について～感染症、循環器系、その他～				教科書第5章（感染症、循環器系疾患、糖尿病・脂質異常症・痛風などの疾患と予防対策について）					
5	主な疾病の予防について～がん、腎疾患、アレルギー疾患、その他～				教科書第5章（がん、腎疾患、アレルギー疾患、不慮の事故、自殺などの疾患と予防対策について）					
6	環境保健（環境の把握と対策、健康を害する物理的・化学的・生物的環境要因とその対策）				教科書第6章（環境保健の概要、大気汚染、水の衛生、廃棄物、公害問題、その他）					
7	地域保健と保健行政（母子保健、学校保健、産業保健）				教科書第7～10章（地域コミュニティの基本、地域のアセスメントと対策、母子保健、学校保健、産業保健の基本とその活動内容）					
8	高齢者保健・精神保健の概要と対策などについて				教科書第11～13章（高齢者保健、精神保健の保健活動とその課題、国際保健医療などについて）					
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学 2024』（2024年発行・最新版）辻一郎/小山洋 南江堂									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-H&R-04				
		●		●						
科目名	医療関連法規				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	医療従事者である理学療法士・作業療法士が、理学療法士及び作業療法士法だけでなく、医療の内容を規定する医療法、医師をはじめとする医療関係職の資格法、保健医療制度、社会保障制度ならびに介護保険法など関連する法規を理解しておくことは専門職として必須である。理学療法士・作業療法士として知っておくべき基本的な法規、社会保障制度とヘルスケア及びリハビリテーション・サービスの体制を学修する。									
到達目標	1. 保健医療、社会保障制度（年金、医療保険、介護保険）地域保健法について概要を理解できるようになる。 2. 現代社会において社会保障施策がどのような役割を果たしているのか、また今後の課題について、どのような対応が望まれるのかを学ぶ。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた内容は授業中に理解できるように集中し、解らない箇所は質問してください。 ・授業後はノート等を整理し、復習に重点を置いてください。 									
回	授業計画				準備学修					
1	社会保障の概念と歴史				教科書 p. 1～13 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
2	日本における社会保障の形成と展開				教科書 p. 13～27 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
3	わが国の年金保険制度の仕組み				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
4	国民年金、厚生年金保険、共済年金の概要				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
5	医療保険制度の仕組み				教科書 p. 81～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
6	医療保険制度の概要（健康保険、国民健康保険）				教科書 p. 86～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
7	医療法と地域保健法				教科書 p. 101～106 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
8	介護保険制度の概要				教科書 p. 111～120 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
教科書	『新・社会福祉士シリーズ第12巻 社会保障』（責任編集＝阿部裕二・熊沢由美）弘文堂									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-BOT-04			
	●	●		●					
科目名	作業療法理論				単位認定者	齋藤 佑樹 外里 富佐江		試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	人間作業モデルや作業遂行と結びつきのカナダモデル、人-環境-作業モデルなど、作業療法における主要な広範囲理論について学ぶことで、人をダイナミックシステムとして捉えるとともに、さまざまな側面から臨床的推論を行う知識を身につける。また、複数の理論を比較・検討する機会を通して、それぞれの理論の特色を学ぶとともに、作業療法の普遍性についても理解を深めていく。								
到達目標	代表的な広範囲理論の構造を説明することができる。 対象事例の状態を特定の広範囲理論に当てはめて推論することができる。								
学修者への期待等	難易度の高い内容が多く含まれます。用語や構造を独立して捉えるのではなく、常に対象者を想像しながら臨床的な観点を踏まえて理解しようとするのが大切です。毎回十分に予習・復習を行い、主体的に授業に参加することを期待します。								
回	授業計画				準備学修				
1	行動変容理論①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
2	行動変容理論②（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
3	人-環境-作業モデル①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
4	人-環境-作業モデル②（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
5	カナダモデル①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
6	カナダモデル②（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
7	人間作業モデル①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
8	人間作業モデル② OSA-II（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
9	人間作業モデル③ OPHI-II（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
10	人間作業モデル④ その他の評価（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
11	OBP2.0①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
12	OBP2.0②（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
13	川モデル①（講義）				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
14	川モデル②（グループワーク）				前回の内容を復習して授業に臨むこと（30分程度）				
15	作業療法に関連する理論のまとめ				講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
教科書	『作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方』齋藤佑樹 編、医学書院* *1年次購入済み								
参考文献	適宜紹介します								
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤・外里：総合病院で理論を基盤とした実践を長年行ってきた。また、作業療法の理論を概観できる本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-12				
	●	●	●	●						
科目名	作業療法研究法				単位認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態		講義		授業回数	30 時間
							15 回			
授業の概要	エビデンスや研究倫理、統計の基礎について学びながら、現在我々が当たり前に行っていることができる知見がどのように作られたのかを理解する。 また、イシューの立て方、リサーチクエスション (PICO・PECO) の作り方、先行研究の調べ方等について演習を通して学ぶことで、臨床におけるさまざまな疑問や社会的課題を研究デザインに落とし込み、解決するための研究計画を立案することができるよう理解を深めていく。									
到達目標	統計用語とその意味を理解し、データを読み解くことができる。 基礎的な検定・推定ができる。 研究用語とその意味を理解し、データを読み解くことができる。 特定のテーマについて先行研究を調べ、未知・既知の知見を整理することができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語が頻出します。用語の意味・定義が曖昧だと授業内容を理解することができません。また、数学的な知識が必要な回があります。毎回予習・復習を十分に行い、主体的に授業に参加することを期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	統計① いろいろな値とその特性				科目専用のノートを準備してください。				齋藤 佑樹 外里 富佐江 平山 和美	
2	統計② 尺度水準				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江 平山 和美	
3	統計③ 正規分布				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江 平山 和美	
4	統計④ 偏差、標準偏差、偏差値				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
5	統計⑤ 推定と検定				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
6	統計⑥ 代表的な検定・推定				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
7	研究① 作業療法エビデンスと実践				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
8	研究② 研究の種類と研究倫理				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
9	研究③ PICOとPECO				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
10	研究④ 先行研究の探し方				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
11	研究⑤ スコーピングレビュー：検索式の作成（グループワーク）				前回の内容をノートに整理してください。(30分程度)				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
12	研究⑥ スコーピングレビュー：特定・選抜・適格性・チャータリング（グループワーク）				グループメンバーで協力して計画的に作業を進めておくこと（概ね30分）				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
13	研究⑦ スコーピングレビュー：結果の要約・集約（グループワーク）				グループメンバーで協力して計画的に作業を進めておくこと（概ね30分）				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
14	研究⑧ スコーピングレビュー：プレゼン準備（グループワーク）				グループメンバーで協力して計画的に作業を進めておくこと（概ね30分）				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
15	研究⑨ グループ発表会				グループメンバーで協力して計画的に作業を進めておくこと（概ね30分）				齋藤 佑樹 外里 富佐江	
教科書	『作業で創るエビデンス』友利幸之介、京極真、竹林崇、医学書院									
参考文献	適宜紹介します									
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧、どちらでも構いません。授業内課題（第15回）のフィードバックは、当日、授業内で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤佑樹：目標設定やロボティクス分野など、複数の科研費研究に従事し、国内・外の雑誌に研究論文が掲載されている。これまでの研究歴を活かしながら、研究法の基礎、文献検索およびクリティーク、研究計画の作成等について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-MNO-01			
	●		●						
科目名	作業療法管理学				単位認定者	齋藤 佑樹		試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間
				授業回数		8 回			
授業の概要	医療人・職業人として必要な生命倫理や職業倫理の他、作業療法の業務運営、チームワーク、リスクマネジメント、ハラスメント等を理解し、所属組織の質を向上させる管理運営についての基礎的知識を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療報酬、介護報酬の仕組みを説明することができる。 2. 作業療法部門の管理・運営について具体的にのべることができる。 3. 作業療法での記録と報告と重要性を理解し、述べることができる。 								
学修者への期待等	自分が作業療法士として、リーダーとして働くことを意識しながら取り組んでほしい。								
回	授業計画				準備学修				
1	診療報酬・介護報酬、組織運営について学ぶ				科目専用ノートを準備すること（概ね30分）				
2	セルフマネジメント①：専門職としての自己研鑽について（講義）				前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）				
3	セルフマネジメント②：専門職としての自己研鑽について（グループワーク）				第1・2回の内容を理解し臨むこと（概ね30分）				
4	チームマネジメント①：IPWについて（講義）				前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）				
5	チームマネジメント②：IPWについて（グループワーク）				第4回の内容を理解し臨むこと（概ね30分）				
6	組織マネジメント①：管理者の視点（講義）				前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）				
7	組織マネジメント②：管理者の視点（グループワーク）				第6回の内容を理解して臨むこと（概ね30分）				
8	働きやすい職場をつくる（グループワーク、発表）				前回までの内容を理解しておくこと（概ね30分）				
教科書	『作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり』澤田辰徳、齋藤佑樹、上江洲聖、友利幸之介、医学書院								
参考文献	適宜紹介します								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

総合病院に勤務しながら、作業療法部門の係長および回復期リハビリテーション病棟のリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-ASO-04				
		●	●	●						
科目名	疾患別作業療法評価学実習 I				単位 認定者	戸田 祐子		授業内課題	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	試験（筆記）	60 %
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間	
							授業回数		22 回	
授業の概要	各領域および各種疾患特有の評価に必要な知識・技術を修得する。本講義では実習を通して中枢神経疾患、骨関節疾患、呼吸器・循環器疾患などの病態を理解するとともに、各検査・測定的基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できるよう技術を身につける。また、評価方法だけでなくリスク管理や対象への接し方、触れ方など作業療法士として必要な態度・姿勢についても必要性和意味を考え、実践できるよう学修する。									
到達目標	1. 評価の意義、目的を理解し説明できる 2. 評価を適切に実施できる 3. 実施結果を正確に記録・報告できる									
学修者への期待等	各疾患のメカニズムを理解し授業に臨んでほしい。 授業内で学んだことを復習し、わからないところは質問し実施できるようになってほしい。 各評価を実施するのにふさわしい服装で臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	面接評価について（COPM、ADOC、生活行為聞き取りシート、興味・関心チェックリスト）				科目専用のノートを準備してください。（30分程度）			齋藤 佑樹		
2	観察評価について（AMPSほか）：実技				前回の復習をして授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹		
3	感覚検査（表在感覚）：実技				事前：感覚の種類を調べておくこと。（30分程度）			戸田 祐子		
4	感覚検査（深部感覚）：実技				事後：感覚検査の技能の復習を行い修得に努めること。（30分程度）			戸田 祐子		
5	反射検査（腱反射、表在反射、病的反射）：実技				事前に教科書P203～212を読んでくること。（30分程度）			戸田 祐子		
6	筋緊張検査：実技				1年次の復習をして授業に臨むこと。教科書P213～217を読んでくること。（30分程度）			戸田 祐子		
7	感覚検査、反射検査、筋緊張のまとめ：実技				事前に第3～6回で学んだ内容を復習しておくこと（30分程度）			戸田 祐子		
8	姿勢反射・バランス検査：実技				事前：姿勢反射の種類を調べておくこと。（30分程度）			高橋 慧		
9	協調性検査：実技				事前に教科書P160～167を読んでくること。（30分程度）			高橋 慧		
10	姿勢反射・バランス検査のまとめ：実技				事前に第8、9回で学んだ内容を復習しておくこと（30分程度）			高橋 慧		
11	片麻痺機能検査（BRS）：実技				事前に教科書P447～450を読んでくること。（30分程度）			齋藤 佑樹		
12	12段階片麻痺回復グレードテスト：実技				前回の復習をして授業に臨むこと。（30分程度）			齋藤 佑樹		
13	BRS、12段階片麻痺回復グレードテストのまとめ：実技				事前に第11、12回で学んだ内容を復習しておくこと（1時間程度）			齋藤 佑樹		
14	上肢機能検査（MFT：脳卒中上肢機能検査）：実技				事後：MFT検査・記録方法と結果の読み方、活用の仕方を復習し修得に努めること。（1時間程度）			戸田 祐子		
15	上肢機能検査（STEF：簡易上肢機能検査）：実技				事後：STEFの評価の目的、検査方法と活用の仕方を復習し修得に努めること（1時間程度）			戸田 祐子		

回	授業計画	準備学修	担当
16	ADL評価（FIM、BI）：実技	事前に教科書P348～361を読んてくること。（30分程度）	齋藤 佑樹
17	ROM：実技	事前に教科書P72～95を読んてくること。（1時間程度）	高橋 慧
18	MMT：実技	事前に教科書P96～106を読んてくること。（1時間程度）	高橋 慧
19	ROM、MMTのまとめ：実技	事前にROMとMMTの復習をしておくこと（1時間程度）	高橋 慧
20	摂食嚥下検査	事後：授業内容をしっかり復習し修得に努めること。（1時間程度）	齋藤 佑樹 櫻庭 ゆかり
21	画像関連	1年次の復習をして授業に臨むこと。（30分程度）	齋藤 佑樹
22	運動発達系検査・精神発達系検査	事前に教科書P558～561とLMSの資料を読んてくること。（30分程度）	高橋 慧
教科書	『リハビリテーション基礎評価学』潮見泰藏、下田信明編集、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題に対するフィードバックは基本的に授業中に実施。時間が足りない場合は、別途時間を設けて実施する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら生活支援を見据えた評価や介入について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-ASO-05				
		●	●	●						
科目名	疾患別作業療法評価学実習Ⅱ				単位 認定者	須藤 あゆみ		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間	
				授業回数		22 回				
授業の概要	各領域および各種疾患特有の評価に必要な知識・技術を修得する。本講義では実習を通して精神疾患、高齢者に多い疾患などの病態を理解するとともに、各検査・測定的基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できるよう技術を身につける。作業療法で用いる面接、観察、検査の各評価を実施することで参加観察やコミュニケーションを意図的に利用すること、各評価の実施結果から得られた情報を記述し発表することなどを実践し、評価に必要な思考力と問題解決能力を身につける。									
到達目標	1. 評価の意義、目的を理解し、説明できるようになる。 2. 評価を適切に実施できるようになる。 3. 実施結果を正確に記録できるようになる。									
学修者への期待等	各疾患のメカニズムを理解し授業に臨んでほしい。 復習をしっかりと行い、評価方法を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンス・基本チェックリスト・SF-36				LMSの資料をよく読み、授業に臨むこと(30分程度)			高橋 慧		
2	コース立方体組み合わせテスト、WHOQOL、karvonen法				LMSの資料をよく読み、授業に臨むこと(30分程度)			高橋 慧		
3	Functional Balance Scale Time Up and Go Test				LMSの資料をよく読み、授業に臨むこと(30分程度)			高橋 慧		
4	高齢者の体力測定(新体力テスト：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび)				LMSの資料をよく読み、授業に臨むこと(30分程度)			高橋 慧		
5	高齢者を評価するにあたっての留意点 認知機能の評価について (MMSE、HDS-R)				事前：リハビリテーション基礎評価学p105～、高齢期作業療法学p64～該当する箇所を読んで授業に臨むこと。(概ね20分) 事後：毎回多くの評価項目について学ぶので、しっかり整理しまとめておくこと。(概ね45分)			戸田 祐子		
6	認知機能の評価について (GBSスケール、臨床的認知症尺度、NMスケール)							戸田 祐子		
7	認知症を呈する方のADL評価 (N-ADL、FAST) 介護負担度尺度 (Zarit介護負担尺度日本語版)							戸田 祐子		
8	BPSDの評価 (Behave-AD、Cohen-Mansfield Agitation Inventory : CMAI、NPI - Q)							戸田 祐子		
9	事例を通した評価の実践 (介護予防を目的とする高齢者)				前回までの復習をし授業に臨むこと。(30分程度)			戸田 祐子		
10	評価結果のまとめと発表				決められた時間にしっかりと伝えることができるよう準備すること。(概ね1時間)			戸田 祐子		
11	精神障害領域の評価 情報収集				教科書 p 171～173を読んでくること。(概ね20分程度)			須藤 あゆみ		
12	生活機能について (精神障害者ケアマネジメント・LASMI・REHAB・ISDA・SMSF)				教科書 p 195～196を読んでくること。(概ね20分程度)			須藤 あゆみ		
13	演習：精神障害者ケアマネジメント・ISDA				第12回で配付した資料を復習しておくこと。(概ね30分)			須藤 あゆみ		
14	演習：精神障害者ケアマネジメント							須藤 あゆみ		
15	精神機能・知能検査について (GAF・BPRS・WAIS)				教科書 p 195～196を読んでくること。(概ね20分程度)			須藤 あゆみ		

回	授業計画	準備学修	担当
16	人間作業モデルの評価法 (OSA II)	配付した資料を確認しておくこと (概ね30分)	熊谷 竜太
17	人間作業モデルの評価法 (MOHOST)	配付した資料を確認しておくこと (概ね30分)	熊谷 竜太
18	作業機能障害の評価 (STOD)	配付した資料を確認しておくこと (概ね30分)	熊谷 竜太
19	作業遂行機能と社会生活技能について ～どのような場面で評価できるか考える～	観察した場면을記録にまとめること。 (概ね30時間程度)	熊谷 竜太
20	作業遂行機能について ～七夕飾り作りの動画から～		須藤 あゆみ
21	作業遂行機能について ～スポーツの動画から～		須藤 あゆみ
22	社会生活技能について ～SST場面の動画から～		須藤 あゆみ
教科書	『リハビリテーション基礎評価学』第2版 潮見泰蔵編、羊土社* 『精神障害と作業療法 病いを生きる・病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践』山根寛著 三輪書店* 『標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学』第3版 松房利憲 医学書院* *1年次購入済み		
参考文献	『標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学』第3版 医学書院		
備考	授業内課題のフィードバックは、授業内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら認知機能に関する評価の実践と活用について講義を行う。
熊谷竜太：総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-06			
		●	●	●					
科目名	身体機能作業療法学実習				単位認定者	齋藤 佑樹		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間
							授業回数		22 回
授業の概要	身体機能領域の作業療法の指導・援助に必要な知識を修得する。運動学、解剖学、生理学で学修した知識を統合しながら身体機能障害の原因と機序、治療原理や治療技法の原則について学修する。								
到達目標	1. 各障害の機序と病態が説明できるようになる。 2. 各障害の種類が説明できるようになる。 3. 各障害の作業療法支援が説明できるようになる。								
学修者への期待等	ディスカッションやグループワークの機会も多くあります。積極的な姿勢で授業に参加してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	授業ガイダンスと身体機能障害の概要：基礎知識の復習、身体機能障害とは				授業後に十分復習を行い理解を深めること。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
2	活動と心身機能・身体構造				1年次の復習を行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
3	治療原理				1年次の復習を行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
4	作業活動と身体機能				1年次に学んだ包括的作業分析の復習を行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
5	関節可動域制限①：発生機序、病態				関節可動域制限について事前に調べておくこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
6	関節可動域制限②：介入モデルの選択				前回までの内容を十分に復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
7	関節可動域制限③：作業療法支援				前回までの内容を十分に復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
8	関節可動域制限④：発表【グループワーク】				グループワークに必要な知識を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
9	筋力低下①：発生機序、病態				筋力低下について事前に調べておくこと。(45分程度)			戸田 祐子	
10	筋力低下②：介入モデルの選択				授業内容を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
11	筋力低下③：作業療法支援				授業内容を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
12	筋力低下④：発表【グループワーク】				グループワークに必要な知識を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
13	感覚障害①：発生機序、病態				感覚障害について事前に調べておくこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
14	感覚障害②：作業療法支援				授業内容を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
15	筋緊張①：発生機序、病態				筋緊張について事前に調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	

回	授業計画	準備学修	担当
16	筋緊張②：作業療法支援	前回の内容を復習し授業に臨むこと。 (30分程度)	高橋 慧
17	姿勢・バランス①：発生機序、病態	姿勢・バランスについて事前に調べておくこと。(30分程度)	高橋 慧
18	姿勢・バランス②：作業療法支援	前回の内容を復習し授業に臨むこと。 (30分程度)	高橋 慧
19	協調性、巧緻動作：病態、作業療法支援	協調性・巧緻動作に関する教科書を読んで授業に臨むこと。(45分程度)	戸田 祐子
20	視覚障害①：発生機序、病態	視覚障害について事前に調べておくこと。(30分程度)	戸田 祐子
21	視覚障害②：作業療法支援	1年次の復習を行い授業に臨むこと。 (30分程度)	戸田 祐子
22	聴覚障害：病態、作業療法支援	聴覚障害について事前に調べておくこと。(30分程度)	戸田 祐子
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 (第3版)』山口昇編、医学書院* 『リハビリテーション基礎評価学』潮見泰藏、下田信明編集、羊土社* 『PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版』小林隆司編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤佑樹：総合病院に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、長年身体障害領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-07				
		●	●	●						
科目名	精神機能作業療法学実習				単位 認定者	須藤 あゆみ		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
							授業時間数		44 時間	
				授業形態	実習	授業回数	22 回			
授業の概要	我が国における精神障害者に対する歴史的処遇と精神科作業療法の関連について学修する。また、対象者の病態理解や治療法に関連した基礎理論を学び、精神科作業療法の評価・治療を学ぶ上での基盤を身につける。さらに、生活の中で働く精神機能の重要性を理解する。									
到達目標	1. 作業療法の対象となる精神疾患の回復過程と、各過程の作業療法の役割を説明できる。 2. 疾患別の障害の特性、作業療法の目的、作業療法実施上の留意点を説明できる。 3. 作業療法における集団の用い方を学び、具体的に企画立案、運営、評価が実施できる。									
学修者への期待等	臨床現場で出会うことの多い疾患・障害を学びます。主体的に授業に参加して下さい。後半はグループワークを行いながら授業を進めるため、積極的に授業に参加して下さい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	精神障害に対する作業療法の基礎理論①共通理論				教科書の第8章 p 287～322を読むこと。（30分程度）			須藤 あゆみ		
2	精神障害に対する作業療法の基礎理論②力動論・学習理論他				教科書の第8章 p 287～322を読むこと。（30分程度）			須藤 あゆみ		
3	統合失調症① 症状と病型、経過と予後、治療について				LMSの資料を読むこと。（30分程度）			熊谷 竜太		
4	統合失調症② 認知機能障害と行動特性について				LMSの資料を読むこと。（30分程度）			熊谷 竜太		
5	統合失調症③ 作業療法について				LMSの資料を読むこと。（30分程度）			熊谷 竜太		
6	気分障害 疾患の病態生理と作業療法について				LMSの資料を読むこと。（30分程度）			熊谷 竜太		
7	アルコール依存症 疾患の病態生理と作業療法について				LMSの資料を読むこと。（30分程度）			熊谷 竜太		
8	パーソナリティ障害① 疾患の病態について				教科書第4章V p 161～167を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
9	パーソナリティ障害② 境界性パーソナリティ障害の作業療法について				教科書の第4章V p 161～167を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
10	神経症性障害① 疾患の病態について				教科書の第4章V p 161～167を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
11	神経症性障害② 作業療法について				教科書の第4章V p 161～167を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
12	摂食障害 疾患の病態と作業療法について				教科書の第4章IV p 154～161を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
13	てんかん 疾患の病態と作業療法について				教科書の第4章VIII p 188～193を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
14	知的障害 疾患の病態と作業療法について				教科書の第4章VIII p 168～173を読むこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		
15	集団と作業療法				1年次の復習をしておくこと。（概ね30分程度）			須藤 あゆみ		

回	授業計画	準備学修	担当
16	集団作業療法 グループ演習① プログラムの計画	グループで集団作業療法を企画する。関係教科書を持参すること。 (概ね30分程度)	須藤 あゆみ
17	集団作業療法 グループ演習② プログラムの計画		須藤 あゆみ
18	集団作業療法 グループ演習③ プログラムの計画案提出	グループ発表・実践の準備をしておくこと。(概ね30分程度)	須藤 あゆみ
19	集団作業療法 グループ演習④ プログラムの実践		須藤 あゆみ
20	集団作業療法 グループ演習⑤ まとめ		須藤 あゆみ
21	統合失調症の認知機能 Activityの活用と適応	これまで学修してきたことを復習してくる。(概ね1時間程度)	古内 純平 須藤 あゆみ
22	症例から学ぶ	これまで学修してきたことを復習してくる。(概ね1時間程度)	古内 純平 須藤 あゆみ
教科書	『作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害』富岡詔子他編、協同医書出版		
参考文献	『精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ』山根寛著、三輪書店 『ひとと集団・場 治療や援助、支援における場と集団のもちい方』(新版)山根寛著、三輪書店		
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
熊谷竜太：総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-08			
		●	●	●					
科目名	病期別作業療法学実習 I				単位認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間
							授業回数		22 回
授業の概要	中枢神経障害に起因する疾患および神経筋・神経変性疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法について実習を通して修得する。								
到達目標	1. 中枢神経疾患の発生機序、障害像を説明できる。 2. 障害像、心理、環境など、複数の情報を統合し、望ましい支援内容を立案・説明できる。 3. 各病期での作業療法士の役割について説明できる。								
学修者への期待等	脳卒中をはじめ、臨床現場で出会うことの多い疾患・障害を扱います。主体的に授業に参加し理解を深めてください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	中枢神経障害の概要：基礎知識の復習と支援の考え方				科目専用のノートを準備してください。(30分程度)			齋藤 佑樹	
2	脳卒中の作業療法①麻痺の回復とは：自然回復と行動変容の違い。行動変容に必要な条件				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
3	脳卒中の作業療法②能力の向上とは：効果的な学習に必要な条件				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
4	脳卒中の作業療法③環境調整とは：良循環を形成する環境調整の視点				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
5	脳卒中の作業療法④急性期における作業療法士の役割(評価・治療の実際)				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
6	脳卒中の作業療法⑤回復期における作業療法士の役割(評価・治療の実際)				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
7	脳卒中の作業療法⑥生活期における作業療法士の役割(評価・治療の実際)				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
8	脳卒中の作業療法⑦これからの脳卒中作業療法				前回の授業の内容をノートに整理すること。(30分程度)			齋藤 佑樹	
9	パーキンソン病① 発生機序と病態				「パーキンソン病」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	
10	パーキンソン病② 評価、支援				前回の授業の内容を復習すること。(30分程度)			高橋 慧	
11	重症筋無力症 発生機序と病態、評価、支援				「重症筋無力症」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	
12	多発性硬化症 発生機序と病態、評価、支援				「多発性硬化症」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	
13	筋萎縮性側索硬化症 発生機序と病態、評価、支援				「筋萎縮性側索硬化症」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	
14	ギランバレー症候群 発生機序と病態、評価、支援				「ギランバレー症候群」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	
15	脊髄小脳変性症 発生機序と病態、評価、支援				「脊髄小脳変性症」について概要を調べておくこと。(30分程度)			高橋 慧	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳性麻痺総論	LMS内の授業資料を読んで予習してくる。(30分程度)	大橋 孝子
17	脳性麻痺各論(特徴と治療)	LMS内の授業資料を読んで予習してくる。(30分以内)	大橋 孝子
18	脳性麻痺児の作業療法	脳性麻痺総論、各論の学習内容を復習すること。(30分程度)	橋浦 樹里
19	筋ジストロフィーの作業療法	「筋ジストロフィー」について概要を調べておくこと。(30分程度)	橋浦 樹里
20	NICU入院児への作業療法と発達支援	「NICU」や「低出生体重児」について調べておくこと。(30分程度)	橋浦 樹里
21	自閉症スペクトラム総論(作業療法評価)	「自閉症スペクトラム」について概要を調べておくこと。(30分程度)	橋浦 樹里
22	自閉症スペクトラム各論(作業療法の実践)	総論内容を復習し、臨床像を理解しておくこと。(30分程度)	橋浦 樹里
教科書	『リハビリテーション基礎評価学』潮見泰藏、下田信明編集、羊土社* 『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版』山口昇編、医学書院* 『PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版』小林隆司編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献	適宜紹介します		
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤佑樹：総合病院に勤務しながら、急性期から生活期まで、様々な病期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、各期における作業療法評価・介入の実際について講義を行う。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-09			
		●	●	●					
科目名	病期別作業療法学実習Ⅱ				単位 認定者	戸田 祐子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態		実習		授業時間数
						授業回数	22 回		
授業の概要	運動器障害、呼吸・循環障害などに起因する疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法および喀痰吸引等の医療的ケアについて実習を通して修得する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の病態を理解した上で、治療の考え方が説明できるようになる。 2. 各疾患の生涯像から適切な評価項目の列挙ができ、その目的を説明できるようになる。 3. 各疾患の病期に合わせた適切な治療の視点が説明できるようになる。 								
学修者への期待等	障害像が模倣できるよう、積極的に学修してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	授業ガイダンスと運動器・呼吸・循環障害の概要：基礎知識の復習、作業療法のプロセス				授業後に十分復習を行い理解を深めること。(1時間程度)			戸田 祐子	
2	総論：問題の捉え方と支援計画				作業療法評価学原論を復習し授業に臨むこと。(30分程度)			戸田 祐子	
3	各論：骨折① 概要と病態、回復過程				教科書の骨折の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
4	各論：骨折② 評価、目標設定				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
5	各論：骨折③ 作業療法支援				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
6	各論：切断 原因と適応、切断の分類、評価と支援				教科書の切断の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
7	各論：ハンドセラピー① 作業療法評価				教科書の手の外科の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
8	各論：ハンドセラピー② 作業療法支援				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
9	各論：脊髄損傷① 発生機序と病態、治療経過				教科書の脊髄損傷の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
10	各論：脊髄損傷② 評価				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
11	各論：脊髄損傷③ 目標設定、作業療法支援				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹	
12	各論：呼吸器疾患① 発生機序、病態、評価、支援				教科書の呼吸器疾患の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
13	各論：呼吸器疾患② 喀痰吸引【実習】				前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。(1時間程度)			高橋 慧	
14	各論：心疾患 発生機序、病態、評価、支援				教科書の心疾患の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	
15	各論：廃用症候群 発生機序、病態、評価、支援				教科書の廃用症候群 (p130～) を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			戸田 祐子	

回	授業計画	準備学修	担当
16	各論：糖尿病 発生機序、病態、評価、支援	教科書の糖尿病（p405～）を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
17	各論：腰痛症 病態、評価、支援	教科書の腰痛症（p327～）を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
18	各論：熱傷 病態、評価、支援	教科書の熱傷の章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
19	各論：リウマチ① 疾患の概要と作業療法の基本方針	教科書のリウマチの章を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
20	各論：リウマチ② 評価と目標設定、支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
21	各論：がん① 疾患の概要と作業療法の基本方針	教科書の悪性腫瘍切除術後（p424～）を読んで授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
22	各論：がん② 評価と目標設定支援	前回の授業を復習し理解した上で授業に臨むこと。（1時間程度）	戸田 祐子
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）』山口昇編、医学書院* 『リハビリテーション基礎評価学』潮見泰藏、下田信明編集、羊土社* 『PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版』小林隆司編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら生活支援を見据えた評価や介入について講義を行う。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-10			
		●	●	●					
科目名	病期別作業療法学実習Ⅲ				単位 認定者	熊谷 竜太		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間
				授業回数		22 回			
授業の概要	認知・精神機能障害などに起因する疾患の病態を理解するとともに、対象者の状態・病期に合わせた作業療法の治療原理、指導・援助方法について実習を通して修得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 認知及び精神機能障害などに起因する疾患の病態を理解する。 対象者の認知及び精神機能障害の状態などを正しく把握できるようになる。 対象者の状態に合わせた治療原理や指導、援助方法について理解する。 								
学修者への期待等	対象者を理解するために、実際に対象者をイメージできるように事例を通して授業を進めていきます。事例の理解を深めるために、準備学修は必要不可欠です。準備学修をしっかりと取り組んで参加するようにしてください。								
回	授業計画				準備学修				担当
1	ガイダンス 精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（全体）				LMSの資料に目を通しておくこと （概ね30分）				熊谷 竜太
2	精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（入院）								熊谷 竜太
3	精神障害の回復状態に応じた作業療法の概要（地域）								熊谷 竜太
4	事例を通して実技で学ぶ （亜急性期の統合失調症患者への介入）								熊谷 竜太
5	事例を通して実技で学ぶ （回復期前期の統合失調症患者への介入）								熊谷 竜太
6	事例を通して実技で学ぶ （回復期後期の統合失調症患者への介入）								熊谷 竜太
7	事例を通して実技で学ぶ （早期の気分障害患者への介入）								熊谷 竜太
8	事例を通して実技で学ぶ （回復期の気分障害患者への介入）								熊谷 竜太
9	事例を通して実技で学ぶ （回復期のアルコール依存症患者への介入）								熊谷 竜太
10	事例を通して実技で学ぶ （デイケアでの実践 ～病気とのつきあい方～）								熊谷 竜太
11	事例を通して実技で学ぶ （デイケアでの実践 ～仲間作り，集団SST～）								熊谷 竜太
12	事例を通して実技で学ぶ （デイケアでの実践 ～生活の自己管理～）								熊谷 竜太
13	事例を通して実技で学ぶ （訪問での実践 ～病気と症状の自己管理～）								熊谷 竜太
14	事例を通して実技で学ぶ （訪問での実践 ～生活状況の安定化に対する介入～）								熊谷 竜太
15	事例を通して実技で学ぶ （訪問での実践 ～緊急時の危機介入～）								熊谷 竜太

回	授業計画	準備学修	担当
16	事例を通して実技で学ぶ (就労支援施設における作業療法士の介入)	LMSの資料に目を通しておくこと (概ね30分)	熊谷 竜太
17	事例を通して実技で学ぶ (司法領域 ～入院処遇における作業療法士の介入～)		熊谷 竜太
18	事例を通して実技で学ぶ (司法領域 ～通院処遇における作業療法士の介入～)		熊谷 竜太
19	認知症を呈する高齢者の作業療法 (基礎疾患別の作業療法の視点)		戸田 祐子
20	認知症に対する作業療法の位置づけ、評価目的とアセスメントツール		戸田 祐子
21	事例を通して学ぶ (評価時の注意点と実施)		戸田 祐子
22	事例を通して学ぶ (治療・指導・援助について)		戸田 祐子
教科書	『精神障害と作業療法 病いを生きる・病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践』新版 山根寛著、三輪書店*1 『標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版』松房利憲他編、医学書院*2 *1 1年次購入済み *2 精神医学各論と同じ教科書を使用する		
参考文献			
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

熊谷竜太：総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-11				
	●	●	●	●						
科目名	作業療法応用演習				単位認定者	須藤 あゆみ		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	作業療法実践に必要な知識・技術・態度について、相互学習法を用いて学びながら分担、協力などのチームアプローチの基盤作りを行う。 また、その過程で自己の課題を認識することや課題解決のための手段を修得すること、そして生涯学び続けるために必要な自己管理能力の向上を図る。									
到達目標	1. 自ら主体的に学ぶための技術を身につける。 2. 解決すべき課題（問）の明確化、解決方法の選択、解決行動ができる。 3. 個別・集団など、与えられた環境を最大限活用して理解を深めることができる。									
学修者への期待等	実習や国家試験等について、グループ学修を中心に学びを深めていきます。学修に対する姿勢はグループ全体の意識や雰囲気に影響しますので主体的な参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンス 学習内容の把握				シラバスを確認すること（概ね30分）			外里 富佐江 須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
2	昨年度の振り返り（基礎三科目を中心に）				昨年度の学習内容を確認しておくこと（概ね60分）					
3	臨床実習を知る：臨床現場で求められる実践力				グループで実施する。 各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）					
4	臨床実習を知る：臨床現場で求められる実践力（グループワーク）									
5	臨床実習を知る：臨床現場で求められる実践力（実技）									
6	臨床実習を知る：臨床現場で求められる実践力（実技）									
7	臨床実習を知る：臨床実習Ⅲの報告会に参加				LMSの資料に目を通しておくこと（概ね30分）					
8	臨床実習を知る：ディスカッション									
9	臨床実習を知る：臨床実習Ⅳの報告会に参加									
10	臨床実習を知る：ディスカッション									
11	国家試験を知る：グループ学修①例題について調べ解説を作成する				課題実施に必要な教科書を準備すること（概ね30分）					
12	国家試験を知る：グループ学修②例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）					
13	国家試験を知る：グループ学修③例題について調べ解説を作成する									
14	国家試験を知る：グループ学修④例題について調べ解説を作成する									
15	まとめ									
					これまで学んだことの復習をしておくこと（概ね60分）					
教科書	なし									
参考文献	適宜紹介します									
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらも構いません。授業内課題のフィードバックは、当該回の授業内に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-12			
		●	●	●					
科目名	高次神経障害作業療法学				単位認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	人の認知・行動と高次脳機能の関係について学修するとともに、高次脳機能障害の種類や症状の詳細について学び、それぞれの障害が、対象者の生活にどのような弊害を及ぼすのかを理解する。また、高次脳機能障害の状態を正確に評価する知識・技術を身につけるとともに、作業療法士として行うべき支援についても理解を深めていく。あわせて、解剖学的知識を踏まえ、脳の局在と出現する症状の関係についても理解を深めていく。								
到達目標	高次脳機能障害の症状・生活への影響・評価・支援の要点を理解し説明できる。 高次脳機能障害者の主観的世界をイメージし言語化できる。 障害像に合わせて適切な意思疎通・評価方法・支援方法を選択できる。 脳画像から対象者に生じる高次脳機能障害の種類・生活への影響を予測できる。								
学修者への期待等	難易度の高い内容を多く含みます。毎回の十分な予習復習と主体的な参加を期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	高次脳機能障害をもたらす病巣（脳画像の理解） 高次脳機能障害の概要				科目専用のノートを準備してください。（30分程度）			齋藤 佑樹 平山 和美	
2	失語：病態・評価・作業療法支援（講義）				前回の内容をノートに整理してください。（30分程度）			齋藤 佑樹 平山 和美	
3	失語：評価・支援の実際（実技）							齋藤 佑樹 平山 和美	
4	失認：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
5	失認：評価・支援の実際（実技）							齋藤 佑樹 平山 和美	
6	注意障害：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
7	注意障害：評価・支援の実際（実技）							戸田 祐子 平山 和美	
8	半側空間無視：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
9	半側空間無視：評価・支援の実際（実技）							戸田 祐子 平山 和美	
10	失行：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
11	失行：評価・支援の実際（実技）							戸田 祐子 平山 和美	
12	遂行機能障害：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
13	遂行機能障害：評価・支援の実際（実技）							戸田 祐子 平山 和美	
14	認知症：病態・評価・作業療法支援（講義）							齋藤 佑樹 平山 和美	
15	認知症：評価・支援の実際（実技）							戸田 祐子 平山 和美	
教科書	『15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 高次脳機能障害実習』石川朗、種村留美								
参考文献	適宜紹介します								
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

齋藤佑樹：総合病院に勤務しながら、長年脳卒中患者の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高次脳機能障害を持つ対象者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
戸田祐子：介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高次脳機能障害対象者への評価の介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-13			
		●	●	●					
科目名	社会生活行為学演習				単位認定者	戸田 祐子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	演習	授業回数			15 回
授業の概要	生活行為について、遂行を妨げている要因を専門的な視点で捉えられるよう学修する。作業療法における生活行為の評価過程や代表的な評価法についての知識や技能を修得するとともに、事例を通して生活行為向上マネジメント(Management tool for Daily Life Performance: MTDLP)を活用できるよう学修する。								
到達目標	対象者にとって大切で重要な「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てたマネジメントツールを理解し、事例を通して活用できる。社会生活上の問題のとらえ方とアプローチ方法について理解し活用できる。								
学修者への期待等	生活行為とは何かしっかり理解してほしい。 身体機能のみならず、対象者の生活行為や役割を考える視点をもって授業に臨んでほしい。 ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを發表しましょう。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	MTDLP(生活行為向上マネジメント)とは実践の軸となる考え方				授業で学んだ用語の整理をしておくこと。(概ね30分)			戸田 祐子	
2	MTDLPのプロセス、「生活行為聞き取りシート」の使い方、「興味・関心チェックシート」の使い方				事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：各シートの使い方を復習する。(概ね30分)			戸田 祐子	
3	「生活行為向上マネジメントシート」の使い方、生活行為申し送り表の使い方				事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：各シートの使い方を復習する。(概ね30分)			戸田 祐子	
4	MTDLP活用のための制度理解				事前：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後：制度についてまとめる。(概ね45分)			戸田 祐子	
5	地域ケアシステムへの活用				地域包括ケアシステムについてまとめる。(概ね1時間)			戸田 祐子	
6	事例を通してMTDLPの実践①回復期(グループディスカッション)				各シートの内容を確認し、事例の要約を作成する。(概ね1時間)			戸田 祐子	
7	事例を通してMTDLPの実践②生活期 事例の理解と進め方(グループディスカッション)				各シートの内容を確認し、事例の要約を作成しましょう。(概ね1時間)			戸田 祐子	
8	事例を通してMTDLPの実践③生活期(グループディスカッション)				各シートの内容を確認し、事例の要約を作成しましょう。(概ね1時間)			戸田 祐子	
9	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ①(MTDLPの実践)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
10	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ②(食事や栄養面について)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
11	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ③(服装や整容、衛生面について)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
12	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ④(服薬管理や体調管理について)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
13	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑤(金銭管理や時間管理について)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
14	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑥(自己管理チェックシートの作成)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
15	精神障害領域における社会生活上の問題とアプローチ⑦(コミュニケーション活動や対人交流場面について)				配付資料に事前に目を通しておくこと。(概ね1時間)			熊谷 竜太	
教科書	『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』一般社団法人日本作業療法士協会編著 医歯薬出版株式会社 『精神障害と作業療法 病いを生きる・病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 新版』山根寛著、三輪書店* *1年次購入済み								
参考文献									
備考	授業内課題のフィードバックは基本的に授業内にて行います。時間が足りない場合は時間を設定し行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

戸田祐子：総合病院併設の介護老人保健施設、特別養護老人ホームにて生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験をいかしながら対象者の生活を中心に据えた考え方について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-14				
		●		●						
科目名	義肢装具学				単位認定者	高橋 慧		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	四肢・体幹の義肢・補装具の基本的構造と機能について学修し、装着訓練ならびに義肢の適合判定の方法、義肢の使用方法について理解を深める。 また、スプリント作成の演習を通し、作成技術の基礎を習得する。									
到達目標	1. 義肢と装具の違いについて説明できるようになる。 2. 疾患別に適応する装具を理解し、作業療法的手段として適用できるようになる。									
学修者への期待等	解剖学や運動学の知識も活用しながら授業に臨み、義肢や装具の構造や働き・使用方法などの知識を身につける。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンス 義肢装具学 概論				教科書P1～5を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
2	義肢学総論(歴史、切断の原因・部位・分類)				教科書P13～22を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
3	上肢切断の評価・ソケットの種類				事前に配付する資料をよく読んで授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
4	下肢切断の評価・ソケットの種類				事前に配付する資料をよく読んで授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
5	装具学総論(歴史・目的・分類)				教科書P123～149を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
6	疾患別適応装具①(関節リウマチ)				教科書P195～199を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
7	疾患別適応装具②(末梢神経損傷)				教科書P200～209を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
8	疾患別適応装具③(頸髄損傷)				教科書P187～193を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
9	切断の作業療法(断端の管理、ROMex、筋力訓練、ADL訓練)				事前に「切断」について予習をする(30分程度)			高橋 慧		
10	義手(適応・分類・構造)				事前に教科書の「作業療法士に必要な義手各種」について予習をする(30分程度)			高橋 慧 本地 光弘		
11	義手(装着・操作訓練・義手のチェックアウト)				前回の復習を十分に行う(30分程度)			高橋 慧 本地 光弘		
12	上肢装具(分類・目的)、スプリント制作準備				教科書P143～149と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
13	スプリント作成①(型紙作り) 実技				前回の復習と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
14	スプリント作成②(加工) 実技				前回の復習と事前に配付する資料を読んで、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
15	スプリントのチェックアウト・まとめ				前回の復習をして授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
教科書	『作業療法テキスト 義肢装具学』石川朗、種村留美総編集、中山書店									
参考文献	『PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1』『義肢・装具学』豊田輝編、羊土社									
備考	授業内課題(第13回、第14回、第15回)のフィードバックは第15回に口頭で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高橋慧：これまで切断者の競技水泳支援や機能評価を行ってきた。これまでの支援経験を活かしながら、義肢装具を使用している方への評価のやり方などを中心に講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-15				
		●	●	●						
科目名	臨床作業療法演習Ⅱ				単位 認定者	須藤 あゆみ		試験(筆記)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	70 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	臨床現場で関わる頻度の多い疾患について、演習を通して一連の作業療法過程について学修する。各疾患の症候をもとに障害像を理解し、評価の選択から結果の解釈、治療への繋がりまでを学修する。									
到達目標	1. 代表疾患の障害像が説明できるようになる。 2. 提示の疾患に対し、適切な評価が実施できるようになる。 3. 提示の疾患の治療計画が立案できるようになる。 4. 提示の疾患の治療計画が説明できるようになる。									
学修者への期待等	演習であるため、積極的に参加すること。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	症例の病態理解と評価計画の立て方				作業療法評価学原論を復習し授業に臨むこと。(30分程度)			外里 富佐江		
2	症例を通して学ぶ臨床思考①：身体障害領域（整形外科疾患）				教科書の骨折の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			外里 富佐江		
3	症例を通して学ぶ臨床思考②：身体障害領域（中枢神経疾患）				教科書の脳血管障害の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)			外里 富佐江		
4	症例を通して学ぶ臨床思考③：老年期障害領域（認知症）				認知症に関する箇所を読み、授業に臨むこと。(30分程度)			戸田 祐子		
5	症例を通して学ぶ臨床思考④：老年期障害領域（変形性関節症）				変形性関節症に関する箇所を読み、授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
6	症例を通して学ぶ臨床思考⑤：精神障害領域（統合失調症）				精神障害作業治療学各論で学んだ代表疾患を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ		
7	症例を通して学ぶ臨床思考⑥：精神障害領域（気分障害）				精神障害作業治療学各論で学んだ代表疾患を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ		
8	症例演習①：症例提示				症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)			齋藤 佑樹		
9	：評価計画立案				症例の病態、将来像を考えて臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹		
10	：まとめ				症例演習①を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)			齋藤 佑樹		
11	症例演習②：症例提示				症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)			熊谷 竜太		
12	：評価計画立案				症例の病態、将来像を考えて臨むこと。(30分程度)			熊谷 竜太		
13	：まとめ				症例演習②を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)			熊谷 竜太		
14	症例演習③：症例提示、評価計画立案				LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		
15	：評価の実践、治療計画の立案				LMSで配付する資料を事前に読み込み授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧		

回	授業計画	準備学修	担当
16	: まとめ	症例演習③を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)	高橋 慧
17	症例演習④: 症例提示、評価計画立案	評価について復習し授業に臨むこと。(1時間程度)	戸田 祐子
18	: 治療計画立案	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)	戸田 祐子
19	症例演習⑤: 症例提示 評価計画立案	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)	齋藤 佑樹
20	: クリニカルリーズニング	4つのリーズニングについて予習して臨むこと。(30分程度)	齋藤 佑樹
21	: まとめとポイント	症例演習⑤を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)	齋藤 佑樹
22	症例演習⑥: 症例提示、評価計画立案	症例の病態を整理し、評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)	外里 富佐江
23	: 評価の実践、治療計画の立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。(30分程度)	外里 富佐江
24	: まとめ	症例演習⑥を振り返るため、必ず復習しておくこと。(30分程度)	外里 富佐江
25	症例演習⑦: 症例提示、評価計画立案	症例の病態を整理し評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)	高橋 慧
26	: 治療計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。(30分程度)	高橋 慧
27	症例演習⑧: 症例提示、評価計画立案	症例の病態を整理し評価項目を列挙しておくこと。(30分程度)	須藤 あゆみ
28	: 治療計画立案	症例の病態、将来像を考えて臨むこと。(30分程度)	須藤 あゆみ
29	: 発表 まとめ	各自発表の準備をしておくこと。(30分程度)	須藤 あゆみ 安達 健朗
30	症例を通して学ぶ 実践例	第27.28.29回の復習をしておくこと(30分程度)	須藤 あゆみ 安達 健朗
教科書	『リハビリテーション基礎評価学』第2版 潮見泰蔵編、羊土社* 『PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版』小林隆司編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献			
備考	授業内課題の提出期限は厳守して下さい。授業内課題のフィードバックは授業内で適宜行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CLP-02			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	齋藤 佑樹		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	6 単位		
				授業形態	実習	授業時間数	270 時間		
						授業回数	- 回		
授業の概要	臨床実習Ⅱ（評価実習）では、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら作業療法を経験し、技能を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるよう学修する。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。								
到達目標	臨床実習Ⅱ（臨床評価）では、臨床実習指導者の指導のもと、作業療法の対象者に対して、検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるようになることを目的とする。								
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ることを。								
授業計画					準備学修				
1. 実習期間 前半：令和6年 9月9日（月）～ 9月 20日（金）（2週間） 後半：令和7年 1月20日（月）～ 2月 21日（金）（5週間） 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特長や施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における臨床実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法(士)の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特長と作業療法(士)の役割を関連付けて説明できる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、基本的な作業療法を実践することを体験する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 2) 選択した評価手段(検査・測定等)を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報を基に全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 利用者への治療技術を体験する。 (3) リハビリテーションチームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法(士)の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を身につける。 1) 自ら計画を立て課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、臨床実習指導者や他職員に報告や相談、連絡を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探求する姿勢をもつことができる。 3. 実習計画 (1) 実習場所は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。					ガイダンス及びセミナーに参加すること。				
教科書	なし								
参考文献									
備考	担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CBO-02				
		●	●	●	●					
科目名	職業リハビリテーション論				単位認定者	戸田 祐子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	職業リハビリテーションの理念や歴史的発展、現在の法制度、社会資源など職業リハビリテーションに携わる上で必要な基本的知識を学習するとともに、職業リハビリテーションにおける作業療法の機能と役割、障害を持つ人々の就労支援に必要な評価について理解を深める。									
到達目標	人にとって職業とはどんな意味があるかを理解し、障害を持つ人の就労支援や作業療法士の役割や可能性を学ぶ。									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 働くということを理解し、説明ができる 職業リハビリテーションの基本的な考え方を身につける 就労に必要な福祉関連機器の用途・導入を理解する 									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	職業の定義、意味、構成要素				授業内容を復習すること(30分程度)				戸田 祐子	
2	職業リハビリテーション活動の概念				授業内容を復習すること(30分程度)				戸田 祐子	
3	就労支援に関する理論(マズローの欲求階層モデルなど)				教科書P22～29をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
4	障害者の就労・就労制度				教科書P10～21をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
5	就労支援に役立つ作業療法理論・モデル・評価				教科書P32～43をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
6	就労支援における介入				教科書P38～43をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
7	就労支援における管理運営と関連機関との連携				教科書P44～51をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
8	作業療法評価① 目的・過程				教科書P52～56をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
9	作業療法評価② 評価の種類・方法				前回の復習と、教科書P56～61をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
10	作業療法評価③ 留意点・ケーススタディ 記録と報告				復習しておくこと(30分程度)				戸田 祐子	
11	障害別就労支援の実際①(身体障害)				これまでの資料を読んでおくこと(30分程度)				戸田 祐子	
12	これまでの講義の総括				これまでの配付資料を用いて総復習をしてから臨むこと(30分程度)				戸田 祐子	
13	障害別就労支援の実際②(若年性認知症)				事前に配付する資料をよく読んでくること。(30分程度)				戸田 祐子	
14	福祉関連機器① 講義				福祉関連機器について、復習すること。(30分程度)				戸田 祐子 大場 薫	
15	福祉関連機器② 実技								戸田 祐子 大場 薫	
教科書	『就労支援の作業療法 基礎から臨床実践まで』中村俊彦・建木健・藤田さより編、医歯薬出版									
参考文献										
備考	授業内課題のフィードバックは基本的に授業内に口頭で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科
作業療法学専攻
3年生

【2022(令和4)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土						
4月	31	1	2	3	入学式	4	5	6					
	7	8	健康診断	9	10	11	12	13					
	14	15	16	17	18	19	20						
	21	22	23	24	25	26	27						
	28	29	昭和の日	30	1	2	3	憲法記念日	4	みどりの日			
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7	8	9	10	11				
	12	13	14	15	16	17	18						
	19	20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	
	26	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	臨床実習Ⅲ	1	
6月	2	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	臨床実習Ⅲ	8	
	9	10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	臨床実習Ⅲ	15	
	16	17	臨床実習Ⅲ	18	臨床実習Ⅲ	19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	
	23	24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	
7月	30	1	臨床実習Ⅲ	2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	
	7	8	臨床実習Ⅲ	9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	
	14	15	海の日	16	17	18	19	20					
	21	22	地域実習	23	地域実習	24	地域実習	25	地域実習	26	地域実習	27	
	28	29	地域実習	30	地域実習	31	地域実習	1	地域実習	2	地域実習	3	
8月	4	5	6	7	8	9	10						
	11	山の日	12	振替休日	13	14	15	16	17				
	18	19	20	21	22	23	24						
	25	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	31	
9月	1	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	臨床実習Ⅳ	7	
	8	9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	臨床実習Ⅳ	14	
	15	16	敬老の日	17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21	
	22	秋分の日	23	振替休日	24	臨床実習Ⅳ	25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28
	29	30	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5		

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月	29	30	臨床実習Ⅳ	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ
	6	7	臨床実習Ⅳ	8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ
	13	14	スポーツの日	15	臨床実習Ⅳ	16	臨床実習Ⅳ
	20	21		22		23	
	27	28		29		30	
11月	3	文化の日	4	振替休日	5		6
	10		11		12		13
	17		18		19		20
	24		25		26		27
12月	1		2		3		4
	8		9		10		11
	15		16		17		18
	22		23		24		25
	29		30		31		1
1月	5		6		7		8
	12		13	成人の日	14		15
	19		20		21		22
	26		27		28		29
2月	2		3		4		5
	9		10		11	建国記念の日	12
	16		17		18		19
	23	天皇誕生日	24	振替休日	25		26
3月	2		3		4		5
	9		10		11		12
	16		17		18	卒業式	19
	23		24		25		26
	30		31		1		2

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CBO-02			
			●	●	●				
科目名	作業療法管理学演習				単位 認定者	熊谷 竜太		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	20 時間		
						授業回数	10 回		
授業の概要	作業療法管理学の知識をもとに、専門職職業人としての意識を高めるとともに、作業療法教育の現状を知り、今後について考査する。 また、生涯にわたり自己学習を進めるための内省力を養い、自己管理能力の向上を図る。								
到達目標	社会人・職業人として、自分自身のマネジメント、所属組織のマネジメント、チームのマネジメントに必要な知識について学び、要点を説明することができる。								
学修者への期待等	社会人として自己実現を果たすために不可欠な知識を得ることができる科目です。主体的に課題に取り組むことを期待します。								
回	授業計画				準備学修				
1	オリエンテーション、マネジメントの概要				LMSの配付資料を事前に確認（30分程度）				
2	起業に関するマネジメント①(講義・グループワーク) ～「起業」とは～								
3	起業に関するマネジメント②(講義・グループワーク) ～起業のための枠組み～								
4	起業に関するマネジメント③(講義・グループワーク) ～ビジネスプランを考える～								
5	チームマネジメント①(講義・グループワーク) ～相手の個性を的確に把握する～								
6	チームマネジメント②(講義・グループワーク) ～チームとしての目標設定～								
7	チームマネジメント③(講義・グループワーク) ～チームとしてのコミュニケーション～								
8	組織マネジメント①(講義・グループワーク) ～組織としての成果～								
9	組織マネジメント②(講義・グループワーク) ～組織における目標～								
10	組織マネジメント③(講義・グループワーク) ～組織におけるコミュニケーション～								
教科書	『作業で結ぶマネジメント 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり』澤田辰徳編、医学書院* * 2年次購入済み								
参考文献	適宜紹介します。								
備考	授業内課題のフィードバックは適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

宮城県作業療法士会に所属し、部や委員会の主担当理事やリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-16			
	●	●	●	●					
科目名	作業療法総合演習				単位認定者	熊谷 竜太		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	相互学習法を通してチームアプローチの必要性を認識するとともにリーダーシップ力の向上を目指す。また、問題解決能力を高めるとともに、計画性や企画力、創造性、表現能力などを学修し、専門職として備えるべき要素の修得と自己学習能力の向上を図る。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の修得状況を客観的に評価できる。 2. 自己に効果的な学修方法を説明できる。 3. 解決すべき課題（問）の明確化、解決方法の選択、解決行動ができる。 4. リーダーとして他者を牽引できる。 								
学修者への期待等	グループ学修を中心に学びを深めていきます。学修に対する姿勢はグループ全体の意識や雰囲気に影響しますので主体的な参加を期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	オリエンテーション 臨床実習Ⅲ・Ⅳ、地域作業療法実習、国家試験の概要				シラバスを確認すること（概ね15分）			外里 富佐江 須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
2	昨年度の振り返り（基礎三科目を中心に）				昨年度の学習内容を確認しておくこと（概ね60分）				
3	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例①の評価計画立案～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
4	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例①のクリニカルリーズニング～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
5	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例①に対する評価の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
6	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例①に対する支援の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
7	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例②の評価計画立案～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
8	臨床現場で求められる実践力を学ぶ グループワーク ～事例②のクリニカルリーズニング～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
9	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例②に対する評価の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
10	臨床現場で求められる実践力を学ぶ 実技 ～事例②に対する支援の実践～				各自必要な教科書、物品の準備をすること。（概ね30分）				
11	国家試験を知る：グループ学修①例題について調べ解説を作成する				課題実施に必要な教科書を準備し読んで来ること（概ね30分）				
12	国家試験を知る：グループ学修②例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）				
13	国家試験を知る：グループ学修③例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）				
14	国家試験を知る：グループ学修④例題について調べ解説を作成する				第11回での課題を実施すること（概ね30分）				
15	まとめ				これまで学んだことの復習をしておくこと（概ね60分）				
教科書	なし								
参考文献	適宜紹介します								
備考	配付資料がある場合は、前日までにLMSに投稿します。印刷・PC上での閲覧どちらでも構いません。授業内課題のフィードバックは、当該回の授業内に行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-TOT-17			
		●	●	●					
科目名	臨床作業療法演習Ⅲ				単位 認定者	須藤 あゆみ		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の 方法	
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	臨床実習で経験した事例を取り上げ、問題の分析から治療介入について、各科目で学んだ知識・技術を統合し考える。作業療法の治療理論に基づいた介入を学び、適切な介入の方法を修得することで作業療法を総合的にする。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域の主要疾患の評価に必要な知識を用い、評価計画を立案することができるようになる。 2. 各領域の主要疾患において、根拠のある効果的な治療プログラムを立案することができるようになる。 3. 領域、疾患、病期に適切なリスク管理や注意事項を挙げるができるようになる。 4. 適切な技術で評価を実施することができるようになる。 								
学修者への 期待等	演習であるため、積極的に参加してほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	クリニカルリーズニングの概念と流れ				作業療法学概論 P148-150「作業療法における思考過程と態度」を読む。(30分程度)			齋藤 佑樹	
2	身体障害①：障害像				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
3	身体障害②：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
4	身体障害③：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
5	身体障害④：治療計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹	
6	身体障害⑤：高齢期障害：評価治療の考え方				身体障害高齢期の病態を復習しておくこと(30分程度)			高橋 慧	
7	身体障害⑥：高齢期障害：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧	
8	身体障害⑦：高齢期障害：治療計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			高橋 慧	
9	精神障害①：症状と障害				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ	
10	精神障害②：評価・治療の考え方				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ	
11	精神障害③：症例の評価計画立案				統合失調症の病態を復習しておくこと(30分程度)			熊谷 竜太	
12	精神障害④：症例の治療計画立案				前回の復習を行って授業に臨むこと。(30分程度)			熊谷 竜太	
13	身体障害⑧：急性期の治療の実際				身体障害急性期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧 道又 顕	
14	身体障害⑨：回復期の治療の実際				身体障害回復期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧 荒井 隆徳	
15	精神障害⑤：治療の実際				実際の治療場面をイメージできるように疾患の病態や評価、治療について復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ 安達 健朗	
教科書	1・2年次で購入した教科書を使用します。事前に連絡します。								
参考文献	特になし								
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
高橋慧：地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CLP-03			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位認定者	齋藤 佑樹		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	7 単位		
				授業形態	実習	授業時間数	315 時間		
						授業回数	- 回		
授業の概要	<p>臨床実習Ⅲ（総合実習）では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に対して、評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。また、臨床的思考能力向上のために自発的に行動し、作業療法士としての自覚を高める。</p> <p>実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。</p>								
到達目標	対象者に対して必要な評価を実施し、評価結果から、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラムの立案ができる。また、立案したプログラムを実施し、再評価を通して効果判定ができる。								
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。								
授業計画					準備学修				
<p>1. 実習期間 臨床実習：令和6年5月20日（月）～7月12日（金）</p> <p>2. 実習目的・目標</p> <p>(1) 臨床実習施設の特性や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特性を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 <p>(2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 2) 評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 3) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 4) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 5) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 6) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者を実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 <p>(3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 <p>(4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 <p>(5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 <p>3. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 					ガイダンス及びセミナーに参加すること。				
教科書	特に指定しない。								
参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。								
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CLP-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位認定者	齋藤 佑樹		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT		必修	3年	開講時期	通年	単位数		
					授業形態	実習	授業時間数	315 時間	
							授業回数	- 回	
授業の概要	臨床実習Ⅳ(総合実習)では、診療参加型によって作業療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の作業療法を提供しながら、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できるようになる。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験(OSCE)を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。								
到達目標	対象者に一連の作業療法を提供できる。また、広い視野を持ち、臨床現場における作業療法士の役割と責任について理解し、チームの一員として自覚を持って行動できる。								
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。								
授業計画					準備学修				
1. 実習期間 臨床実習：令和6年8月26日（月）～10月18日（金） 2. 実習目的・目標 (1) 臨床実習施設の特徴や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 臨床実習施設の特徴を踏まえた作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 1) 利用者の全体像把握のために必要な評価計画を立てることができる。 評価から治療までの基本を臨床実習指導者のもとで実践する。 2) 選択した評価手段（検査・測定等）を適切に実施できる。 3) 検査・測定等の結果と利用者の生活を結び付けた解釈や判断ができる。 4) 利用者の全体像をまとめるために必要な情報を選択できる。 5) 選択した情報をもとに全体像をまとめることができる。 6) まとめた全体像から短期・長期目標を設定できる。 7) 短期・長期目標に基づいた治療計画を立案することができる。 8) 作業療法治療・指導を行うことができる。 9) 再評価・最終評価を行うことができる。 10) 利用者を実施した作業療法の一連の流れをまとめることができる。 (3) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (4) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じ、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べる等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (5) 施設や病院の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。					ガイダンス及びセミナーに参加すること。				
教科書	特に指定しない。								
参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。								
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CLP-05			
	●	●	●	●	●				
科目名	地域作業療法実習				単位認定者	齋藤 佑樹		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間		
						授業回数	- 回		
授業の概要	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにて、地域包括ケアシステムの中で、作業療法士に求められる役割やマネジメント等について学修する。								
到達目標	地域包括ケアシステムの中で作業療法士に求められる役割やマネジメントについて理解する。								
学修者への期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ることを。								
授業計画					準備学修				
1. 実習期間 臨床実習：令和6年7月22日（月）～8月2日（金）（うち1週間） 2. 実習目的・目標 (1) 地域における施設の役割や臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ。 1) 地域における実習施設の役割を述べることができる。 2) 臨床実習施設における作業療法（士）の役割と機能を述べることができる。 3) 地域における臨床実習施設の役割と作業療法（士）の役割を遂行することができる。 (2) リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける。 1) リハビリテーション・チームを成立させるために必要な機能を説明できる。 2) リハビリテーション・チームの一員としての作業療法（士）の役割を説明できる。 3) リハビリテーション・チームにおける他職種の役割を説明できる。 4) リハビリテーション・チームの一員として、コミュニケーションを図ることができる。 5) 他職種と連携を取り、チームアプローチを実践できる。 (3) 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実に努める。 1) 自ら計画を立て、自己の責任において積極的に課題を遂行することができる。 2) 必要に応じて、自ら進んで臨床指導者や他職員に報告、連絡、相談を行うことができる。 3) 自身の行動を振り返り、改善すべきところは、自ら対応策を考え実行することができる。 4) 助言や指摘、指導を素直に受け入れ、次の行動に活かすことができる。 5) 常に疑問を持ち、利用者への理解を深めるために自ら文献で調べ等、探究する姿勢をもつことができる。 6) 自身が目標とする作業療法（士）像を述べることができる。 (4) 実習施設の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する。 1) 作業療法の診療報酬、介護報酬の意識を持ち業務を遂行できる。 2) スタッフと協働し、部門運営に参加することができる。 3) リスクマネジメントができる。 3. 実習計画 (1) 実習は作業療法士が従事している施設とする。 (2) 実習時間は1日を概ね8時間とする。 (3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。					ガイダンス及びセミナーに参加すること。				
教科書	特に指定しない。								
参考文献	『臨床実習の手引き』を配付する。								
備考	成績は、実習セミナー（症例発表会、レポート作成等）、OSCEに実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。 担当者 作業療法学専攻教員：齋藤佑樹、外里富佐江、須藤あゆみ、戸田祐子、熊谷竜太、高橋慧								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CBO-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位認定者	須藤 あゆみ		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	3年		授業形態	演習	授業時間数		30 時間
						授業回数	15 回		
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること。(概ね30分)			金谷 さとみ	
2	他職種の専門性を知る[1]看護師				授業の内容をまとめる。(概ね30分)			他学科教員 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
6	連携する際の工夫を考える[1]グループワーク				発表資料の作成準備をする。(毎回概ね30分)			原 和彦 金谷 さとみ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
7	連携する際の工夫を考える[2]発表								
8	他職種の専門性を聴く [1] 障害者総合支援法における連携 ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			及川 かよ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
9	他職種の専門性を聴く [2] ケアマネージメント ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			福地 慎治 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
10	他職種の専門性を聴く [3] 地域包括支援センター ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			東海林 大介 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
11	事例検討 [1] 事例提示				発表資料の作成準備をする。(毎回概ね30分)			原 和彦 金谷 さとみ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
12	事例検討 [2] グループワーク								
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク								
14	事例検討 [4] 発表1								
15	事例検討 [5] 発表2								
教科書	配付資料								
参考文献	『信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』京極真、中央法規								
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤あゆみ：精神科病院に勤務し精神障害領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-3-SPS-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門支持科目特別演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間
				授業回数		30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	1. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 2. 臨床医学の知識と技術を修得し、作業療法を実践的に展開できるようになる。								
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと。 3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること。								
回	授業計画				準備学修				担当
1	運動機能学1：上肢				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)				小松 佳路
2	運動機能学2：下肢								小松 佳路
3	運動機能学3：体幹・顔面								小松 佳路
4	運動機能学4：姿勢・歩行								小松 佳路
5	解剖生理学1：呼吸器系								荒牧 隼浩
6	解剖生理学2：循環器系								伊藤 大亮
7	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系								伊藤 大亮
8	解剖生理学4：消化器系								伊藤 大亮
9	生理学1：神経、脳、脊髄								鈴木 裕治
10	生理学2：体性感覚								鈴木 裕治
11	生理学3：運動、反射								鈴木 裕治
12	生理学4：特殊感覚、自律神経								鈴木 裕治
13	生理学5：細胞、内臓								鈴木 裕治
14	内科学1 循環器疾患、代謝性疾患								齋藤 佑樹
15	内科学2 呼吸器疾患								齋藤 佑樹

回	授業計画	準備学修	担当	
16	内科学3 消化器疾患 内分泌疾患	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	高橋 慧	
17	内科学4 腎臓・泌尿器疾患		高橋 慧	
18	人間発達学		外里 富佐江	
19	病理学1 感染、炎症、腫瘍		熊谷 竜太	
20	病理学3 病理所見、病因		熊谷 竜太	
21	整形外科学1 骨折、関節リウマチ、OA		高橋 慧	
22	整形外科学2 脊柱・脊損、切断 他		高橋 慧	
23	臨床心理学1 防衛機制、学習理論		熊谷 竜太	
24	臨床心理学2 心理検査・心理療法		熊谷 竜太	
25	神経内科学1 脳血管障害、高次脳機能障害		戸田 祐子	
26	神経内科学2 末梢神経障害、筋疾患、変性疾患 他		戸田 祐子	
27	リハビリテーション医学 (臨床リハ医学)		平山 和美	
28	精神医学1 精神症状		須藤 あゆみ	
29	精神医学2 統合失調症他		須藤 あゆみ	
30	精神医学3 認知症		須藤 あゆみ	
教科書	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み			
参考文献	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイペック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイペック その他、適宜指定する			
備考	1～13回、19～21回：PT・OT合同授業			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-3-SPS-02			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門展開科目特別演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間
				授業回数		30 回			
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、作業療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	作業療法士として、各疾患に対する作業療法の実施に必要な知識・技術が展開できるようになる。								
学修者への期待等	今まで学んだすべての知識、技術を整理・統合するため、予習・復習が必須です。学修計画をきちんと立て、計画性を持って取り組んでください。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	基礎医学復習			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹		
2	臨床医学復習			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹		
3	作業療法評価学① (ROM、MMT、知覚検査)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子		
4	作業療法評価学② (意識障害、バランス、ADL)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子		
5	作業療法評価学③ (高次脳機能)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子		
6	作業療法評価学④ (精神障害)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			熊谷 竜太		
7	作業療法評価学⑤ (老年期障害)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			高橋 慧		
8	作業療法評価学⑥ (発達障害)			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			外里 富佐江		
9	身体障害領域の作業療法① 脳血管障害			脳血管障害の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹		
10	身体障害領域の作業療法② 高次脳機能障害			脳血管障害の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹		
11	身体障害領域の作業療法③ 神経筋疾患			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			戸田 祐子		
12	身体障害領域の作業療法④ 整形疾患 (骨折、絞扼性神経障害、末梢神経損傷)			主要な整形疾患の概要を復習し、授業に臨むこと。(1時間程度)			齋藤 佑樹		
13	身体障害領域の作業療法⑤ 整形疾患 (関節リウマチ、熱傷 他)			主要な整形疾患の作業療法の章を復習し、授業に臨むこと。(2時間程度)			齋藤 佑樹		
14	身体障害領域の作業療法⑥ 呼吸器疾患・循環器疾患			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹		
15	身体障害領域の作業療法⑦ 脊髄損傷			これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)			齋藤 佑樹		

回	授業計画	準備学修	担当
16	精神障害領域の作業療法① 統合失調症 気分障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	須藤 あゆみ
17	精神障害領域の作業療法② 神経症性障害他	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	須藤 あゆみ
18	精神障害領域の作業療法③ 摂食障害・パーソナリティ障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	須藤 あゆみ
19	精神障害領域の作業療法④ アルコール依存・薬物依存他	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	須藤 あゆみ
20	精神障害領域の作業療法⑤ 精神障害領域における制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	熊谷 竜太
21	高齢期障害領域の作業療法① 加齢変化による障害・住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	戸田 祐子
22	高齢期障害領域の作業療法② 認知機能障害	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	戸田 祐子
23	高齢期障害領域の作業療法③ 高齢期に関わる制度	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	熊谷 竜太
24	発達障害領域の作業療法① 正常発達、脳性麻痺	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	外里 富佐江
25	発達障害領域の作業療法② その他の主要疾患	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	外里 富佐江
26	義肢装具学	これまで使用した教科書の義肢装具学の章を読んで授業に臨むこと。(1時間程度)	高橋 慧
27	福祉機器、住宅改修	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	戸田 祐子
28	画像関連	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	齋藤 佑樹
29	研究法、関連法規	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	齋藤 佑樹
30	作業療法概論、作業活動、まとめ	これまで学修した内容を復習しておくこと。(予習復習各30分程度)	須藤 あゆみ
教科書	1・2年次に購入した教科書を使用します。詳細については事前に連絡します。		
参考文献	後日指定する。		
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務を有する教員一覧
- オフィスアワー

リハビリテーション学科作業療法学専攻のナンバリングの見方

【例】RO-1-○○○-01

RO	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号（全学共通教養科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

リハビリテーション学科作業療法学専攻：RO

② 科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

特別科目：3

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	BSF	Body Structure & Function
		疾病の成り立ちと回復	D&R	Disease & Recovery
		保健医療福祉とリハビリテーション	H&R	Health & Rehabilitation
	専門展開科目	基礎作業療法学	BOT	Basic OT
		作業療法管理学	MNO	Management of OT
		作業療法評価学	ASO	Assessment of OT
		作業治療学	TOT	Treatment of OT
		臨床実習	CLP	Clinical Practice
地域作業療法		CBO	Community Based OT	
特別科目		SPS	Special Seminar	

④ 連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

リハビリテーション学科作業療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教育分野	科目	科目名称	ナンバリング
		人間と文化 0 HCU	日本語表現法 コミュニケーション論
教養教育分野	人間と社会 0 HSO	英語 I	CO-0-HCU-02
		英語 II	RO-0-HCU-02
		歴史と文化	CO-0-HCU-03
		大学生生活論	CO-0-HSO-01
		暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		心理学概論	RO-0-HSO-01
		情報処理	CO-0-HSC-01
		生物学	RO-0-HSC-01
		物理学	RO-0-HSC-02
人間と科学 0 HSC	健康スポーツ科学	RO-0-HSC-03	
	専門支持科目 1	解剖学	RO-1-BSF-01
		解剖学演習	RO-1-BSF-02
		解剖学実習	RO-1-BSF-03
		生理学 I	RO-1-BSF-04
		生理学 II	RO-1-BSF-05
		生理学実習	RO-1-BSF-06
		運動学	RO-1-BSF-07
		運動学演習	RO-1-BSF-10
		運動学実習	RO-1-BSF-08
人間発達学		RO-1-BSF-09	
人体の構造・機能と発達 BSF	病理学	RO-1-D&R-01	
	医学概論	RO-1-D&R-02	
	内科学	RO-1-D&R-03	
	リハビリテーション栄養学	RO-1-D&R-04	
	神経学	RO-1-D&R-05	
	臨床医学特論	RO-1-D&R-12	
	小児科学	RO-1-D&R-06	
	整形外科学総論	RO-1-D&R-07	
	精神医学総論	RO-1-D&R-08	
	精神医学各論	RO-1-D&R-09	
疾病の成り立ちと回復 D&R	老年学	RO-1-D&R-13	
	臨床心理学	RO-1-D&R-10	
	救急救命医学	RO-1-D&R-11	
	公衆衛生学	RO-1-H&R-03	
	保健医療福祉とリハビリテーション H&R	社会福祉概論	RO-1-H&R-02
	医療関連法規	RO-1-H&R-04	
	リハビリテーション概論	RO-1-H&R-01	
	基礎作業療法学 BOT	作業療法概論	RO-2-BOT-01
		作業科学	RO-2-BOT-02
		作業療法理論	RO-2-BOT-04
基礎作業学演習		RO-2-BOT-03	
作業療法研究法		RO-2-BOT-05	
作業療法管理学 MNO	作業療法管理学	RO-2-MNO-01	
	作業療法管理学演習	RO-2-MNO-02	
作業療法評価学 ASO	作業療法評価学原論	RO-2-ASO-01	
	身体機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-02	
	精神機能作業療法評価学実習	RO-2-ASO-03	
	疾患別作業療法評価学実習 I	RO-2-ASO-04	
	疾患別作業療法評価学実習 II	RO-2-ASO-05	
作業治療学 TOT	作業療法治療学	RO-2-TOT-01	
	作業療法治療学演習	RO-2-TOT-02	
	身体機能作業療法学実習	RO-2-TOT-06	
	精神機能作業療法学実習	RO-2-TOT-07	
	病期別作業療法学実習 I	RO-2-TOT-08	
	病期別作業療法学実習 II	RO-2-TOT-09	
	病期別作業療法学実習 III	RO-2-TOT-10	
	作業療法基礎演習	RO-2-TOT-03	
	作業療法応用演習	RO-2-TOT-11	
	作業療法総合演習	RO-2-TOT-16	
	高次神経障害作業療法学	RO-2-TOT-12	
	日常生活活動学	RO-2-TOT-04	
	社会生活行為学演習	RO-2-TOT-13	
	義肢装具学	RO-2-TOT-14	
	臨床作業療法演習 I	RO-2-TOT-05	
	臨床作業療法演習 II	RO-2-TOT-15	
	臨床作業療法演習 III	RO-2-TOT-17	
	臨床実習 CLP	臨床実習 I (体験実習)	RO-2-CLP-01
臨床実習 II (評価実習)		RO-2-CLP-02	
専門展開科目 2	作業治療学 TOT	作業療法治療学	RO-2-TOT-01
		作業療法治療学演習	RO-2-TOT-02
		身体機能作業療法学実習	RO-2-TOT-06
		精神機能作業療法学実習	RO-2-TOT-07
		病期別作業療法学実習 I	RO-2-TOT-08
		病期別作業療法学実習 II	RO-2-TOT-09
		病期別作業療法学実習 III	RO-2-TOT-10
		作業療法基礎演習	RO-2-TOT-03
		作業療法応用演習	RO-2-TOT-11
		作業療法総合演習	RO-2-TOT-16

			臨床実習Ⅲ（総合実習）	RO-2-CLP-03
			臨床実習Ⅳ（総合実習）	RO-2-CLP-04
			地域作業療法実習	RO-2-CLP-05
		地域作業療法 CBO	地域リハビリテーション論	RO-2-CBO-01
			職業リハビリテーション論	RO-2-CBO-02
			保健医療福祉連携論	RO-2-CBO-03
		特別科目 3 SPS	専門支持科目特別演習	RO-3-SPS-01
			専門展開科目特別演習	RO-3-SPS-02

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
8	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
9	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
10	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
11	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
12	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
13	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
14	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
15	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
16	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
17	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
18	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
19	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
20	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
21	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	実務教員	実務の概要
運動学演習	1 齋藤佑樹	総合病院に勤務しながら、長年身体障害者領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、運動学の基礎的知識や動作分析についての講義を行う。
神経学	2 佐直信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもちに講義を担当する。
臨床医学特論	1 荒牧隼浩	当該教科担当者は急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。
老年学	1 佐直信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもちに講義を担当する。
精神医学各論	1 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かし講義を行う。
老年学	1 佐直信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもちに講義を担当する。
リハビリテーション栄養学	1 高泉 佳苗	管理栄養士として病院における栄養管理の実務経験を有する。
救急救命医学	1 伊藤大亮	大学病院にて長年理学療法業務に従事し、十分な臨床実務経験を有する。内部障害チーム所属時はリハ部門内救急救命教育に従事した経験を有する。
作業療法理論	1 齋藤 外里	総合病院で理論を基盤とした実践を長年行ってきた。また、作業療法の理論を概観できる本講義の指定教科書も科目責任者の編集である。
作業療法研究法	1 齋藤佑樹	目標設定やロボティクス分野など、複数の科研究に従事し、国内・外の雑誌に研究論文が掲載されている。これまでの研究歴を活かしながら、研究法の基礎、文献検索およびクリティック、研究計画の作成等について講義を行う。
作業療法管理学	1 齋藤佑樹	総合病院に勤務しながら、作業療法部門の係長および回復期リハビリテーション科棟のリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。
疾患別作業療法評価学実習Ⅰ	1 戸田祐子	総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら生活支援を見据えた評価や介入についての講義を行う。
疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	1 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	1 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、長年身体障害者領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	1 戸田祐子	総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら認知機能に関する評価の実践と活用について講義を行う。
疾患別作業療法評価学実習Ⅱ	1 熊谷竜太	総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
身体機能作業療法学実習	1 齋藤佑樹	総合病院に勤務しながら、長年身体障害者領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
身体機能作業療法学実習	1 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、長年身体障害者領域の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
身体機能作業療法学実習	1 戸田祐子	総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
精神機能作業療法学実習	1 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
精神機能作業療法学実習	1 熊谷竜太	総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅰ	1 齋藤佑樹	総合病院に勤務しながら、急性期から生活期まで、様々な病期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、各期における作業療法評価・介入の実際について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅰ	1 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅱ	1 戸田祐子	総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら生活支援を見据えた評価や介入についての講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅱ	1 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅲ	1 熊谷竜太	総合病院に勤務し、院内や外来、訪問などの精神障害領域に携わってきた。その臨床経験を活かし、作業療法対象者の状態把握のための評価について講義を行う。
病期別作業療法学実習Ⅲ	1 戸田祐子	総合病院併設の介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、作業療法プロセスや介入の実際について講義を行う。
高次神経障害作業療法学	1 齋藤佑樹	総合病院に勤務しながら、長年脳卒中患者の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高次脳機能障害を持つ対象者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
高次神経障害作業療法学	1 戸田祐子	介護老人保健施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高次脳機能障害者への評価の介入の実際について講義を行う。
社会生活行為学演習	1 戸田祐子	戸田：総合病院併設の介護老人保健施設、特別養護老人ホームにて生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験をいかしながら対象者の生活を中心に据えた考え方について講義を行う。
義肢装具学	1 高橋慧	これまで切断者の競技水泳支援や機能評価を行ってきた。これまでの支援経験を活かしながら、義肢装具を使用している方への評価のやり方などを中心に講義を行う。
臨床作業療法演習Ⅱ	2 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
臨床作業療法演習Ⅱ	2 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
作業療法管理学演習	1 熊谷竜太	宮城県作業療法士会に所属し、部や委員会の主担当理事やリーダーを担ってきた。これまでの経験を活かしながら、セルフ・チーム・組織のマネジメントについて講義を行う。
臨床作業療法演習Ⅲ	1 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、一連の作業療法過程について講義する。
臨床作業療法演習Ⅲ	1 高橋慧	地域の通所施設に勤務しながら、生活期の作業療法に携わってきた。これまでの臨床経験を活かしながら、高齢者に対する評価や介入の実際について講義を行う。
保健医療福祉連携論	1 須藤あゆみ	精神科病院に勤務し精神障害者領域の作業療法に携わってきた。その臨床経験を活かし、連携の重要性や要点について講義を行う。
40 実務経験を有する教員が担当する科目の単位		
93 設置基準上の標準単位数		

2024(令和6)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。